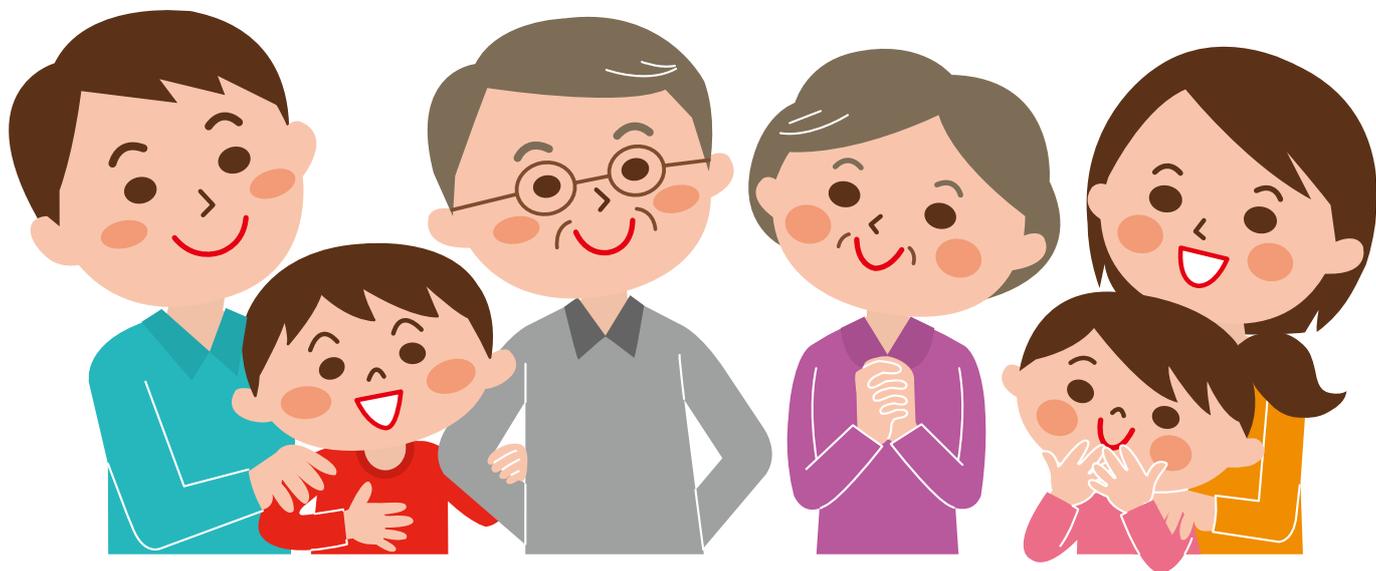




# 第4次 座間市地域福祉活動計画

令和4年度～令和8年度

誰もが安心して暮らせる、ともに助け合い  
支え合うまちづくりを目指して



## はじめに

令和に入り、突如発生した新型コロナウイルスの感染拡大において、めまぐるしい環境の変化が起きました。また長引く不況に拍車をかけるように経済もさらに不安定になり、今も国民の生活に大きな影響が出ています。

また、新たな生活様式の導入や地域活動なども制限せざるを得ない状況の反面では、オンラインでコミュニケーションを図る機会が増え、新たな人のつながる仕組みが徐々に定着し始めていることを感じ捉えています。



このような情報化社会が加速する中、わたくしたちが暮らす身近な地域で起こり続けていることは、少子高齢化や核家族化、高齢者世帯の増加、また低所得による生活困窮者の増加、さらには介護や将来への不安、子どもや高齢者のひきこもりや社会的孤立など、福祉課題の複雑化や生活課題の深刻化をたどり、この座間市においても大きな広がりを見せています。

このたび、わたくしたち座間市社会福祉協議会では、「第4次座間市地域福祉活動計画」を策定し、「誰もが安心して暮らせる、ともに助け合い支え合うまちづくりを目指して」に向けて、地域のみなさんとともに福祉のまちづくりを進めてまいります。

特に、本計画の重視するところは「つながり」です。

人や地域のつながりが、お互いの支え合いになり、さまざまな課題解決を図る原動力となります。

これからの「座間市の福祉」を築く大切な言葉だと認識し、本計画を通じて座間市のみなさんに発信していきたいと考えています。

なお、本計画は座間市社会福祉協議会のみが進めるものではありません。

本計画は、「座間市のつながり」をつくるため、地域のみなさんとともに行動を起こし、「座間市の福祉」を発展させる計画として、地域のみなさんや関係団体との協働、そして座間市行政との連携を図りながら、役職員一丸となって取り組んでまいります。

結びに、本計画の策定にあたり、さまざまな視点からご意見並びにご支援をいただきました第4次座間市地域福祉活動計画策定委員会委員の方々をはじめ、ご協力をいただきました地域のみなさん、関係各位に厚くお礼を申し上げます。

令和4年3月

社会福祉法人座間市社会福祉協議会  
会長 飛田 昭

## 第4次座間市地域福祉活動計画の策定に寄せて

昨今、新型コロナウイルス感染症の拡大により、緊急事態宣言の発出、まん延防止等重点措置の実施、新型コロナウイルスワクチンの接種など、今までに経験したことのない事態に直面しています。今後、目に見えないウイルスとの共存を考えたとき、目に見えない心のつながりの大切さを実感しているところです。

本市が令和3年3月に策定した「座間市地域福祉計画（第四期）」では、「誰もが安心して暮らせる、ともに助け合い支え合うまちづくりを目指して」という基本理念を掲げています。

この度、座間市社会福祉協議会が策定された「第4次座間市地域福祉活動計画」においても、本市の地域福祉計画と同じ基本理念、方向性の下、長引くコロナ禍での様々な変化の中にあっても、目指すべき地域福祉を実現するために、二つの計画が連携・補完し合い、地域福祉が推進されていくことを願うばかりです。

今後も、貴会におかれましては、地域団体や関係機関との連携を更に深めていただき、地域コミュニティの充実を図っていただきたく存じます。

本市としましても、地域福祉サービスの活性化を更に進めてまいる所存ですので、今後ともお力添えをお願い申し上げます。

結びに、計画の策定にあたり御尽力された関係皆様に、心より敬意を表しまして、挨拶とさせていただきます。

令和4年3月



座間市長 佐藤 弥斗

## 地域福祉活動計画の策定にあたって

このたび、令和4年度から5年間、令和8年度までを計画期間とする、「第4次座間市地域福祉活動計画」をまとめました。

本活動計画策定にあたり、ご協力いただきました地域の皆さんや企業、団体、施設・事業者の皆さんに感謝申し上げます。

この計画は、座間市における地域福祉を推進するため、福祉に関する課題への取り組みや、あるべき将来像を実現するため、市民全体として具体的に取り組むことを示しています。

コロナ禍において浮き彫りとなった各種の福祉の課題、高齢者介護、障がい者支援、子育て問題や虐待、日常生活・防災減災対策、貧困など、多くの課題について検討しました。

この計画によって、さまざまな福祉課題を、身近な地域で取り組むことを目的として、市民の誰もが「住みやすい座間市」を作るため、共に支え合い助け合う、「つながり」という仕組みづくりが重要であることを本活動計画に盛り込んでいます。

「座間市地域福祉計画（第四期）」の基本理念をこの計画でも共通理念としています。

この両計画が相互に連携・補完を行い、座間市の特性を踏まえた地域福祉の課題解決並びに地域福祉の推進が図れることを目的に、計画を実行してまいります。

今後5年間で、基本理念を達成するために行う活動の方針を示すものとして、基本方針と3つの重点項目を軸に、具体的な取り組みや事業展開をめざし、実践的にまとめました。

本活動計画を着実に推進するため、前途の活動計画の推進・評価を行う体制も構築していきます。

結びに本活動計画の策定にあたって、座間市の地域福祉に関するアンケートやヒアリングにご協力いただいた関係者の皆さんに感謝申し上げます。

本活動計画を多くの市民のみなさんに知っていただき、一人でも多くの市民が地域の担い手になれるよう、そして未来の座間市の地域福祉の実現を期待し、本活動計画が福祉向上に大きく寄与することを願っております。

令和4年3月

第4次地域福祉活動計画策定委員会  
委員長 鈴木孝幸

# 【目 次】

## 第1章 地域福祉活動計画の基本的な考え方

- 1 地域福祉活動計画策定にあたり . . . . . 6
  - (1) 地域福祉活動計画とは . . . . . 6
  - (2) 地域福祉活動計画策定の目的 . . . . . 6
  - (3) 地域福祉活動計画と地域福祉計画の関連性 . . . . . 7

## 第2章 現状と課題

- 1 座間市の現状と課題
  - (1) 座間市の地域の特性 . . . . . 8
  - (2) アンケート調査結果の概要 . . . . . 10
  - (3) ヒアリング調査結果の概要 . . . . . 12
  - (4) 座間市における福祉課題 . . . . . 14
  
- 2 座間市地域福祉活動計画の現状と課題
  - (1) 第3次座間市地域福祉活動計画の評価と課題 . . . . . 16
  - (2) 第4次座間市地域福祉活動計画の方向性 . . . . . 17

### 第3章 計画の基本理念と構成

1	基本理念	18
2	基本方針	19
3	重点項目	
	(1) 担い手づくり	20
	(2) 居場所づくり	22
	(3) 安心・安全な地域づくり	24

### 第4章 計画の推進・評価・進行管理

1	計画の推進について	26
2	計画の評価について	26
3	計画の指標について	26
4	計画の進行管理について	28

### 資料編

	アンケート調査の結果	30
	ヒアリング調査の概要	37
	第4次地域福祉活動計画策定委員会設置要綱	41
	(1) 策定委員会名簿	43
	(2) 策定委員会開催経過	43
	SDGsと本計画	44

# 第1章 地域福祉活動計画の基本的な考え方

## 1 地域福祉活動計画策定にあたり

### (1) 地域福祉活動計画とは

地域にはさまざまな困りごとが存在します。それらを解決するために、地域福祉活動計画は「誰もが安心して暮らせる、ともに助け合い支え合うまちづくり」を実現するために、座間市社会福祉協議会（以下「市社協」）と地域のみなさんと連携し、実行するための行動計画です。

### (2) 地域福祉活動計画策定の目的

地域福祉活動計画を策定することで、地域のみなさん一人ひとりが地域福祉に関心を持ち、さまざまな地域の困りごとの解決に向けた取り組みを行うことで、「座間市に住んで良かった。」とみなさんが思える地域づくりを目指します。

## 5年後の理想の座間市



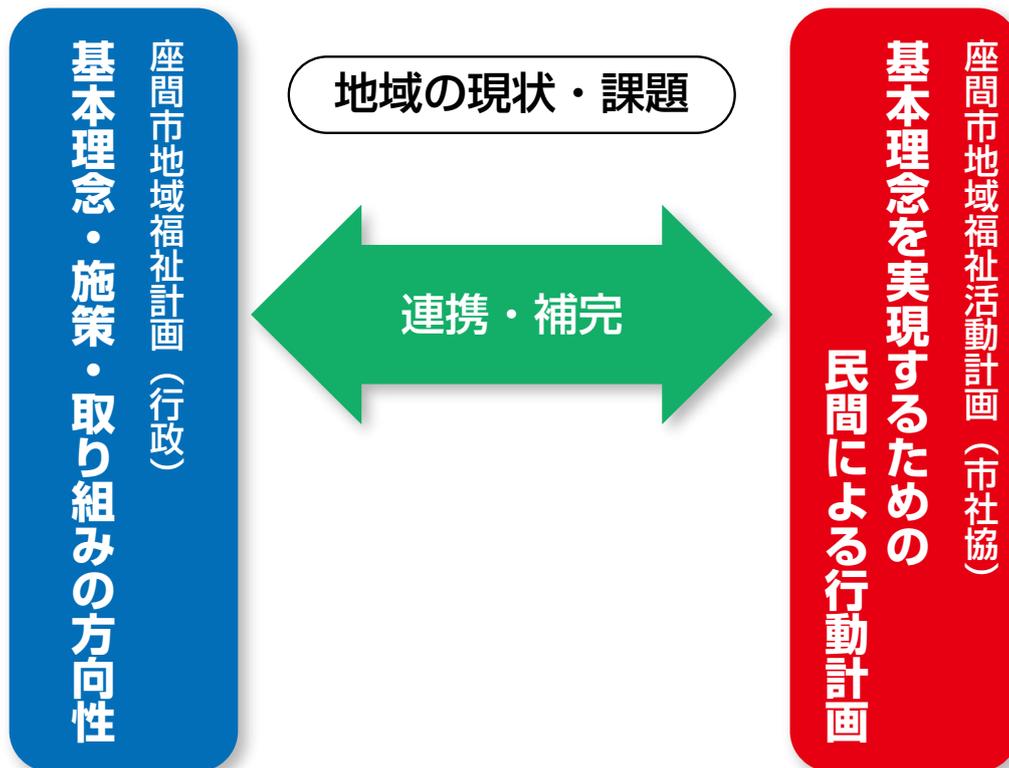
## 座間市の現状・困りごと



座間市地域福祉活動計画は「座間市の福祉」の現状と理想のギャップを埋め、理想に近づけるための具体的な行動計画です

### (3) 地域福祉活動計画と地域福祉計画の関連性

地域福祉推進のための「基盤や仕組み」を作る『地域福祉計画』（行政）と、それを実行するため社会福祉協議会と地域住民、関係機関等が連携し、地域福祉を推進するための具体的な取り組みを示した『地域福祉活動計画』は、同じ理念や方向性の下で座間市の地域福祉を推進していくための計画です。



#### 〈座間市社会福祉協議会とは〉

社会福祉法人座間市社会福祉協議会(市社協)は、住み慣れた地域の中で誰もが安心して暮らせる社会づくりを目的とし、地域のみなさんの参加協力のもと「共に生きるまちづくり」をめざして福祉事業を進めている社会福祉法に定められた民間の福祉団体です。



## 第2章 現状と課題

### 1 座間市の現状と課題

#### (1) 座間市の地域の特徴

神奈川県ほぼ中央に位置し、西を流れる相模川沿いと、東の相模原台地にまたがる、名のある坂が84もある起伏の多い土地です。

この変化に富んだ地形が、座間市の土地に多彩な自然を育み、豊富な湧水という財産をもたらしました。

令和3年10月1日における座間市の総人口は132,086人（外国人を含む）で、そのうち65歳以上の高齢者が25.8%を占めています。

また、座間市と相模原市南区にまたがって米陸軍の基地『キャンプ座間』や、大型物流センターがあり、外国籍の方が比較的多い地域です。



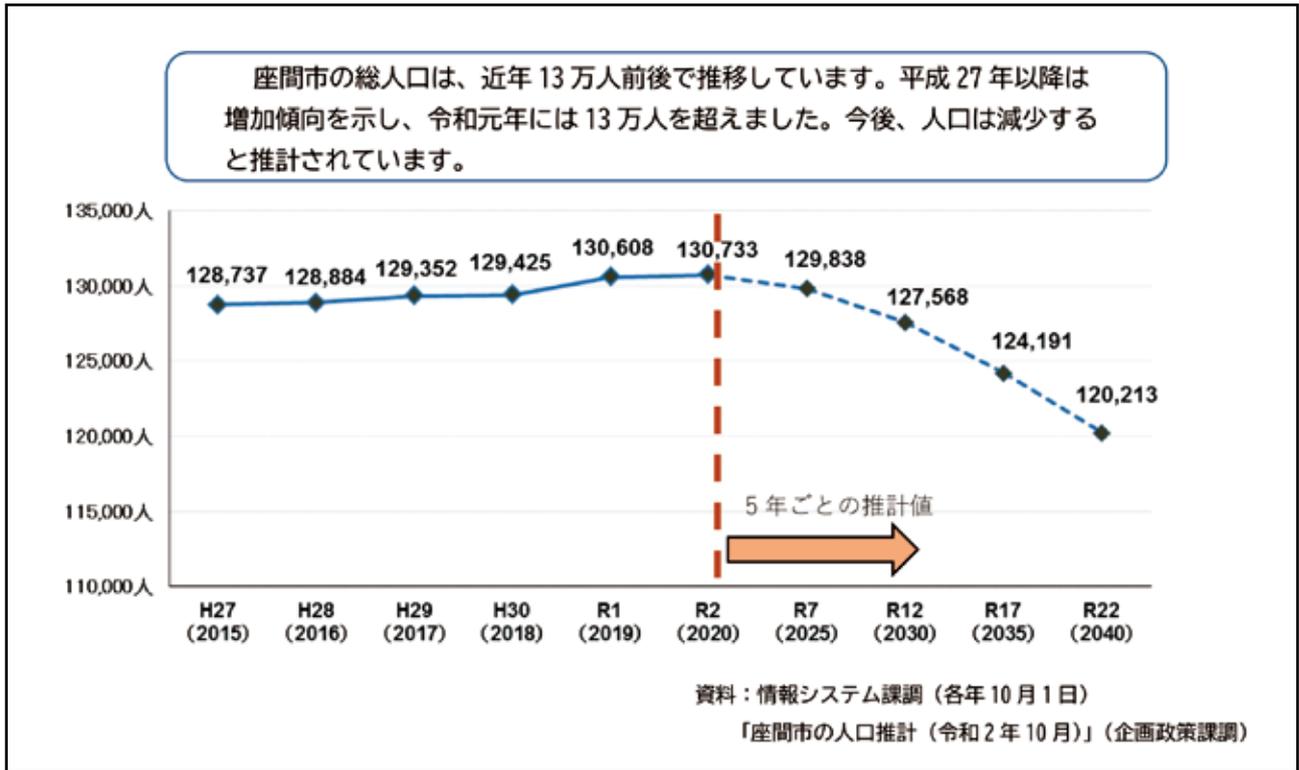
地下水に恵まれ、水道水の約85%が地下水で賄われています。日本では珍しい『中硬水』で、天然のミネラルを多く含んでいます。

総面積 17.57km<sup>2</sup>  
人口 132,086人

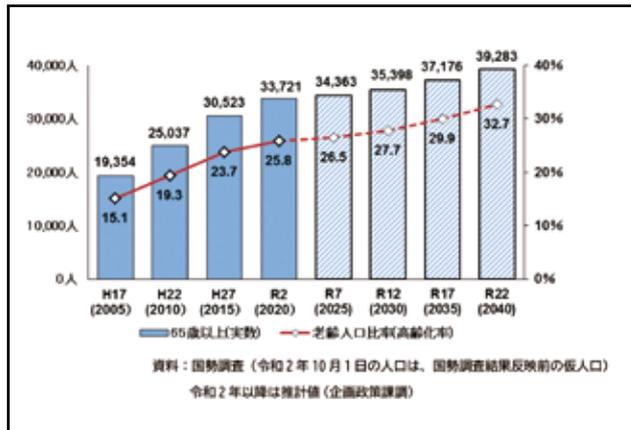


【座間市の人口の推移】

資料：座間市地域福祉計画（第四期）



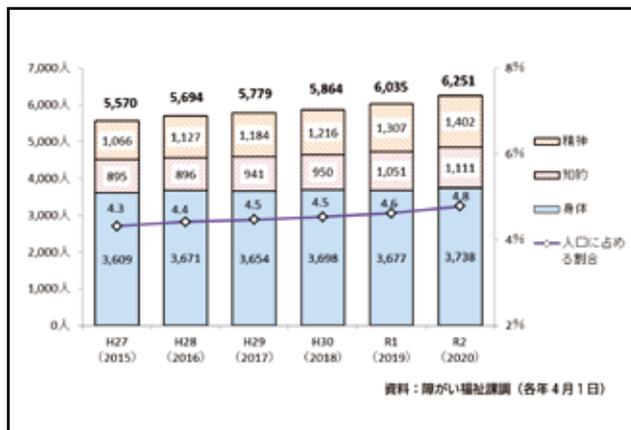
【高齢者人口の推移】



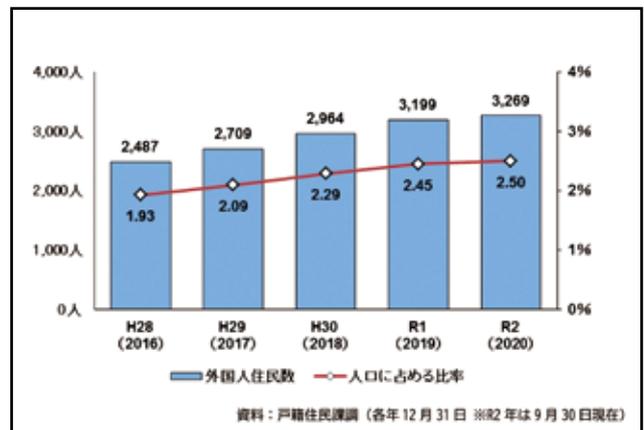
【子ども人口の推移】



【障がい児・者の推移】



【外国人住民の推移】



## (2) アンケート調査結果の概要

目的：第4次座間市地域福祉活動計画（以下、第4次計画）を策定するにあたり、地域福祉課題を明らかにするために、実施しました。

時期：令和3年6月1日～9月15日

対象：市内在住・在学・在勤の10代以上

集計数：379（Webアンケート\*1：212、紙：167）

※ Webアンケートの活用により、広い世代からの回答が得られました。

### 【調査結果】

5年後の座間市に関する設問では、『世代間交流』『子ども』『高齢者』『災害・防災』といったキーワードが多く挙げられました。

『子ども』には、広い世代から多くの回答があり、『災害・防災』には、40代以上からの回答が多くあり、関心の高さが伺えました。



### 【新型コロナウイルス感染症（COVID-19）\*2（以下、コロナ）流行後の変化について】

アンケートでは、コロナにおける地域のみなさんの意識や行動の変化についてもお聞きしました。

調査結果では、外出の自粛により社会へのつながりの希薄化が見られる一方、座間市においては、地域の住民同士の付き合いに変化は見られず、地域のつながりが持続していることが確認できました。しかしながら、対面での活動が困難となった地域活動は、大きな影響を受けました。

地域に関する情報は、広報誌やインターネットを通しての入手が中心となっており、コミュニケーション手段では、あらゆる世代でLINE\*3が上位にあがるなど、パソコンやスマートフォンが生活の中で大きな役割を果たしていることもわかりました。

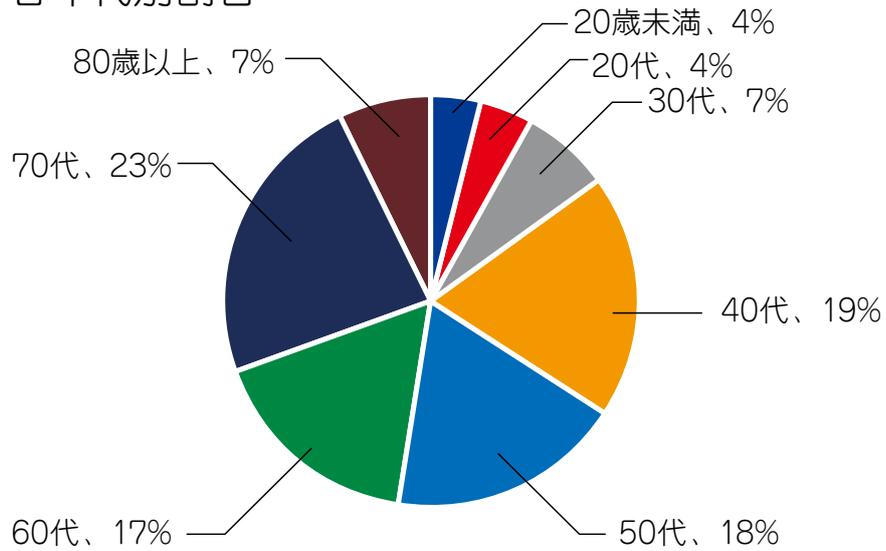
暮らしの悩みや不安は増加傾向にあり、健康や災害、経済、介護等の不安を抱えた生活の現状が浮かび上がりました。

\*1 Webアンケート：インターネット上で回答するアンケートです。

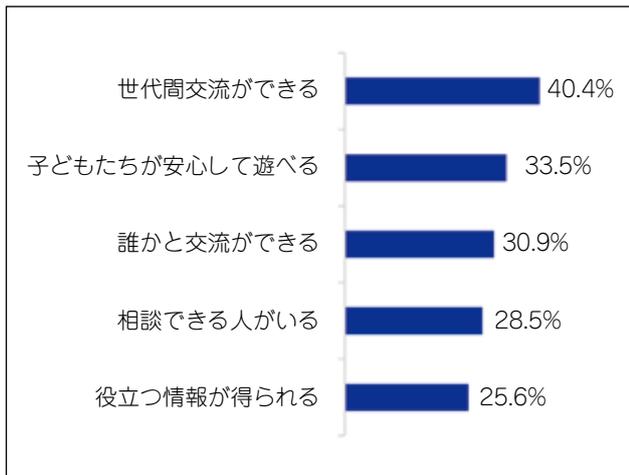
\*2 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）：新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、令和元年12月初旬に、中国の武漢市で第1例目の感染者が報告されてから、わずか数カ月ほどの間にパンデミックと言われる世界的な流行となりました。わが国においては、令和2年4月より令和3年2月時点まで、「緊急事態宣言」、「まん延防止等重点措置」などが実施され、社会生活へ多大なる影響を与えました。

\*3 LINE：スマートフォンやパソコン、タブレットなどで利用できるアプリケーションです。LINEアプリのユーザー同士で、無料でメッセージのやり取り、音声通話、ビデオ通話ができます。

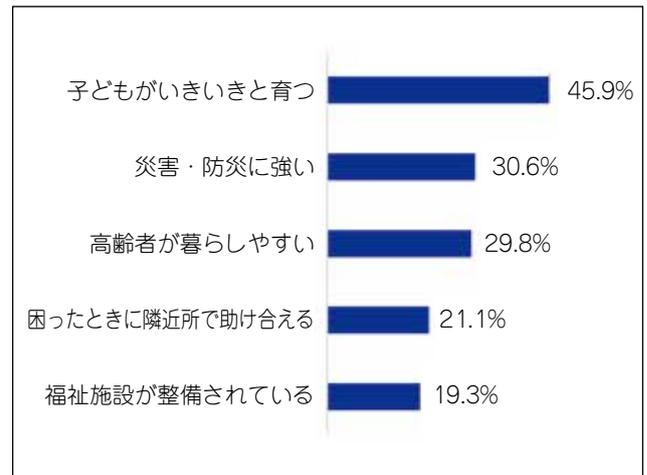
### 回答者年代別割合



### 5年後の座間に必要な場所



### 5年後はどのような座間になってほしいか



### 福祉教育・ボランティア体験

多くの方々に福祉施設や団体の活動を知ってもらうことで、福祉について学び、ボランティアへの理解を深めています。



### (3) ヒアリング調査結果の概要

目 的：アンケートから浮かび上がった地域の課題について、本計画策定委員会<sup>\*1</sup>の方々より、さらに踏み込んだ具体的なご意見を伺うことを目的に実施しました。

時 期：令和3年9月14日～9月24日

#### 【ヒアリング結果】

ヒアリング内容を整理する中で、次のような地域活動の現状や、求められる座間市の将来像が浮かび上がってきました。

#### 地域活動の現状・課題

- ① コロナの影響による地域活動の中止や変更
- ② 地域活動の担い手不足
- ③ ICT<sup>\*2</sup>の活用が進む中で、端末や通信環境がないために生じる孤立や格差

#### 今後の可能性

- ① ICTの活用による遠方の人との面談や個々に合わせた対応
- ② 世代間交流の進展や、子ども食堂<sup>\*3</sup>などへの理解の拡大、情報発信による認知度の向上

#### 座間市の理想の将来像

- ① 誰もが安心して暮らせるまち
- ② 災害に強いまち
- ③ 助け合えるまち
- ④ 子育て・福祉の充実したまち

#### 必要な場所

- ① 誰もがつながることができる場所

以上から「つながり」が重要なテーマであることが浮かび上がりました。「つながり」を生み出す「居場所」をつくるには既存の施設を上手に使うことや、場所を活かす仕組みやコミュニティのあり方を考えることの重要性も指摘されました。

\* 1 策定委員会：自治会役員や民生委員・児童委員、福祉関係者、ボランティア団体、福祉施設、民間事業所、学校など、地域に関わるさまざまな方に委員として策定にご協力いただきました。

\* 2 ICT：インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジーの略で、「情報通信技術」を意味します。SNS上でのやり取りやメールでのコミュニケーション、オンラインショッピング等、コミュニケーションをはじめとした人々の暮らしを豊かにするIT技術の総称です。

\* 3 子ども食堂：地域住民や自治体が主体となり、無料または低価で子どもたちに食事を提供するコミュニティの場を指しています。また、単に「子どもたちの食事提供の場」としてだけでなく、帰りが遅い会社員、家事をする時間のない家族などが集まって食事をとることも可能です。このように、「人が多く集まる場所」ができたことで、地域住民のコミュニケーションの場としても考えられています。

### 今後の地域活動について必要なこと

- ①公共施設の利用拡大
- ② ICT の環境整備
- ③公共施設へのアクセス向上
- ④情報交換・連携
- ⑤防災の取り組みが浸透している
- ⑥安心、安全のまちとしての発展

地域みなさんに寄り添ったコミュニケーションを大切にするとともに、活動を知ってもらうための情報発信の必要性もあげられました。

### 第4次計画策定委員会の経過

	令和3年度							
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
アンケート調査	6/1	→			9/15			
ヒアリング調査				9 団体				
地域福祉活動計画 策定委員会		第1回		第2回		第3回	第4回	第5回

### 第4次計画策定委員会の様子

(対面開催だけではなく、Zoom<sup>\*1</sup>を活用しオンラインでの開催もしました)



\* 1 Zoom：パソコンをスマートフォンなどで利用できるアプリケーションです。映像や音声を使って会議ができます。

(4) 座間市における福祉課題

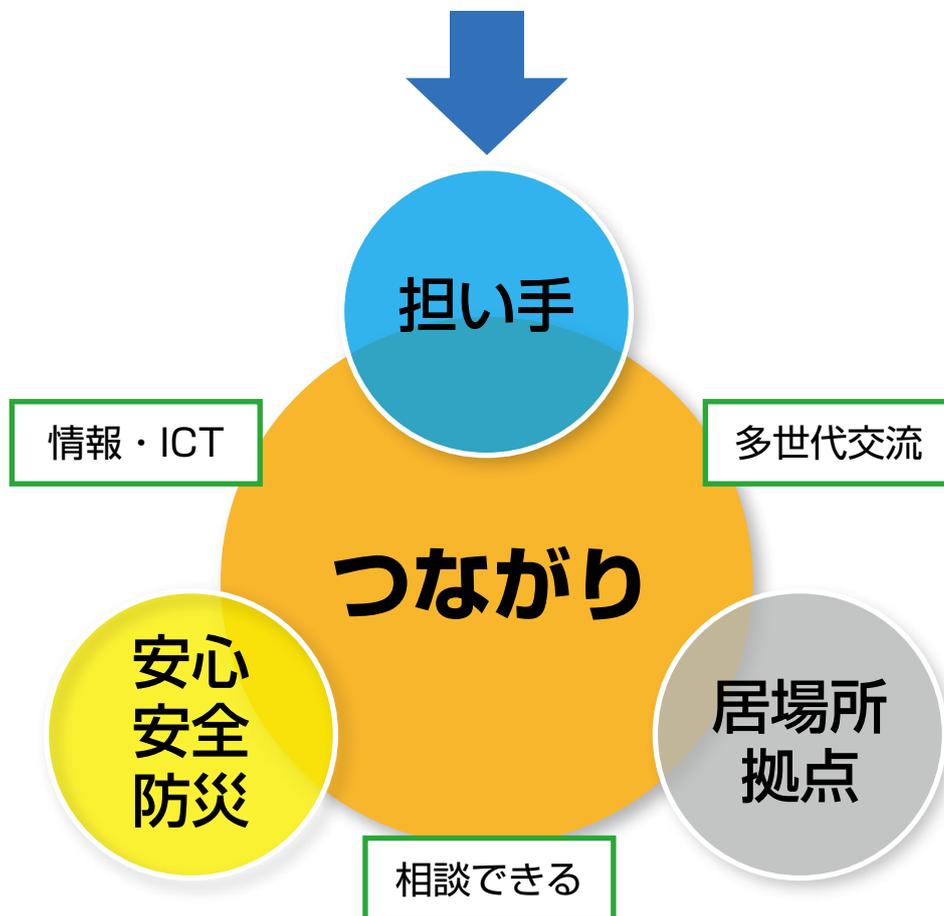
地域のみなさんへのアンケート結果と策定委員へのヒアリング内容を整理して、座間市の地域福祉の課題を次のようにまとめました。

【アンケート、ヒアリング、委員会で出たキーワード】

誰も取り残さず 孤立を防ぐ、つながる	年齢や障がいの有無に かかわらず安心して暮らせる	生活困窮も含めて 人が人として暮らせる座間
歩いて行ける身近な場所で 活動（小さな地域）	それぞれに 居場所のあるまち	情報発信・情報交換
担い手・後継者不足	多世代交流・大人も子どもも みんな一緒に交流できる	ICT オンライン格差 環境整備
拠点整備	災害・防災	
対面の意義を再認識	困りごとを相談できる	

これらのキーワードを図式化して、次のようにまとめました。

重要なテーマである、「つながり」を中心に据えて、「つながり」を具体化していくために必要な「担い手」「居場所・拠点」「安心・安全・防災」「情報・ICT」「多世代交流」「相談できる」というキーワードを抽出しました。



## 地域の活動報告

～防災カフェ～



～サロン活動～



～みんなの食堂～



～防犯パトロール～



～救急救命講習～



～学習教室～



## 「もったいない」を「ありがとう」へ

### フードドライブ・スタディドライブ

これなら私にもできる、身近にできる、ボランティアが  
フードドライブ・スタディドライブ。  
ご寄付いただいた食品や文具等は、支援を必要とされて  
いる方々へお届けします。



★食品ロスの削減にも  
つながります！★

誰かのためになるんだね



## 2 座間市地域福祉活動計画の現状と課題

### (1) 第3次座間市地域福祉活動計画の評価と課題

#### 【評価の目的と方法】

第3次座間市地域福祉活動計画（以下、第3次計画）の課題や可能性を本計画に反映し、今後の地域福祉活動の発展に活かすことを目的に評価を行いました。

評価は「第3次計画」を構成する3つの活動（①圏域<sup>\*1</sup>別活動計画②福祉重点項目③行政提言）について実施、中でも市社協の活動の中心となっている②の福祉重点項目は、目標の指数（ものさし・数値）に基づいて達成度を把握するとともに、指標だけでは把握しきれない部分についても、総合的に評価を行いました。

#### 【評価の内容】

##### ①圏域別活動計画について

圏域ごとの社協活動の組織化や情報交換会等を実施し、協議体<sup>\*2</sup>による地域のみなさんやさまざまな機関と課題検討や情報共有を図りました。その結果、各圏域による進行度合いの違いはありますが、地域ごとの実情を踏まえた圏域別活動計画の実行が果たされました。

評価や改善については継続的に取り組みを行っていきます。

##### ②福祉重点項目について

「見守り」「担い手」「居場所」についての活動指標の数値目標は概ね達成しましたが、「お金」「情報」については達成には及びませんでした。

##### ③行政提言について

第3次計画第5章における行政提言においては、評価に沿う活動はできませんでした。ただし、行政の開催する各種会議への参加を行い、必要に応じた意見交換や提案を行いました。また、年度事業計画ならびに事業報告を作成し、毎年市への提出を行いました。

ちょこっとメモ



地域の現状や課題を地域のみなさんが把握し、問題解決に向けて話し合い、住みやすい地域づくりに取り組んでいます。



\* 1 圏域：地域のみなさんが日常生活を営んでいる範囲として、地理的条件・人口・交通事情その他の社会的条件及び、介護給付等対象サービス提供のための施設の整備状況などの条件を総合的に勘案して定める区域で、介護保険法により設定することとされています。国では、おおむね30分以内に必要なサービスが提供される区域として中学校区を想定しています。

\* 2 協議体：生活支援・介護予防のサービスの体制整備に向けて、地域のみなさんや、団体・関係機関等の参画が求められています。市町村が主体となって「定期的な情報の共有・連携強化の場」として設定することにより、地域のみなさんや、団体・関係機関等の情報共有及び連携・協働によるサービスや資源開発等を推進することを目的とします。

### 【第3次計画の課題】

- ・計画の位置付けは地域のみなさんと市社協の「活動計画」ですが、市社協の事務局や理事会メンバーが中心となり策定したため、市社協の事業計画という側面が強くなっていました。
- ・地域福祉活動を数値で評価していく点は画期的でしたが、数値に現れない部分も評価する必要がありました。
- ・評価の時期、具体的な方法、推進体制に関する検討が不足していたため、実績値と目標値を比較するにとどまり、事業を取り巻く状況の調査・分析や、それを踏まえた事業の改善など、評価の本来の目的に関する活動が行えていませんでした。

### (2) 第4次座間市地域福祉活動計画の方向性

「第3次計画」の評価を踏まえて、市社協内部で第4次計画の方向性について議論を重ねた結果、次の3原則を作成しました。

### 【第4次計画の3原則】

## 地域住民が策定に関わり多様性が尊重された計画 身近でわかりやすい計画 実行が可能な計画

この3原則の『目的』、『実現方法』、『具体策』を、次の通りに整理してまとめました。

地域福祉活動計画策定にあたってのビジョン（原則）と策定までのプロセス ～誰もが安心して暮らせる、ともに助け合い支え合うまちづくりを目指して～			
原則	地域住民が策定に関わり多様性が尊重された計画	身近でわかりやすい計画	実行が可能な計画
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域は多様な人の集まり（コミュニティ）であるという共通認識を深める</li> <li>→多様な声を計画に反映させる</li> <li>・コロナ禍の影響を反映させる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画の存在を知ってもらう</li> <li>・誰でもわかる活動計画にする</li> <li>・社協の事業計画ではなくあくまでも地域住民主体の活動計画にする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実行できる計画にする</li> <li>→評価、見直しで軌道修正</li> <li>・業務の質の向上</li> </ul>
実現方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート・ヒアリング</li> <li>・新型コロナウイルスとの共存、共生（新生活様式を取り入れる）</li> <li>・策定委員の人選への配慮</li> </ul> <p style="text-align: center;">地域の実情・意見を踏まえた計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰もが目で見てわかる計画にする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年評価を行う</li> <li>・活動計画を通常業務に組み込む</li> </ul>
具体策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート・ヒアリングの分析</li> <li>・感染症対策</li> <li>・ICTの活用</li> <li>・男女比年齢等、偏りのない策定委員の選出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡易版・英語版・点字版の作成</li> <li>・視覚に訴える図や絵を用いた計画</li> <li>・情報発信</li> <li>→計画策定経過をオープンに</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価委員会の設置、継続評価</li> <li>・社協事業計画への明記</li> </ul>

この3原則をもとに「第4次計画」を策定し、推進・評価にも活用していきます。

## 第3章 計画の基本理念と構成

現状や課題、これまでの取り組みを踏まえ、計画を推進します。

### 1 基本理念

行政計画の地域福祉計画と民間計画の地域福祉活動計画の目指すゴールは同じため、座間市地域福祉計画（第四期）の理念と合わせています。

## 誰もが安心して暮らせる、ともに助け合い 支え合うまちづくりを目指して

基本方針

### 誰もが孤立せずにつながりがある座間 （つながり）

重点項目

1. 担い手づくり . . . . . 担い手の発掘と支援。きっかけづくり。
2. 居場所づくり . . . . . 誰でも気軽に立ち寄れる場所づくり。
3. 安心・安全な地域づくり . . . 安心を感じられる地域づくり。顔の見える関係づくり。

重点項目達成のために市社協は次の四点に力を入れていきます。

①現状分析



②情報発信



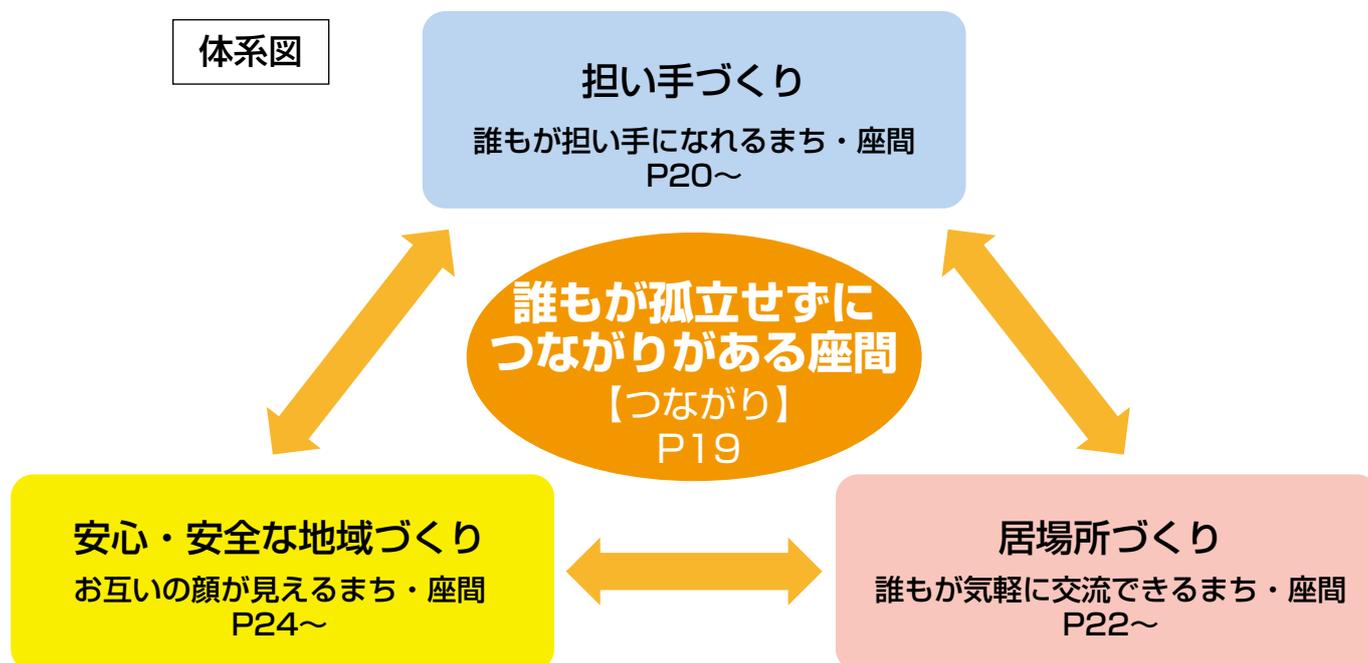
③福祉教育



④活動支援



体系図



## 2 基本方針

# 誰もが孤立せずにつながりがある座間 (つながり)

コロナの影響がある中、調査結果や策定委員会での議論で、人とのつながりの重要性が浮き彫りになりました。

そのため、基本方針を『誰もが孤立せずにつながりがある座間』と設定しました。

この方針は、座間市内で孤立する人が減り、人と人がつながる地域を目指していくものです。そして、キーワードは「つながり」としています。

本計画を策定する中で「つながり」を構築するためには、

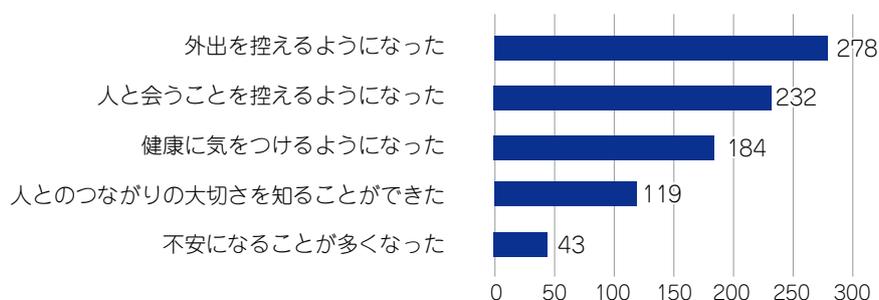
①地域活動を実施する「担い手」がいること。②地域にさまざまな「居場所」があること。③「安心、安全」な地域になること。

の3つにまとめました。

そこで「担い手づくり」、「居場所づくり」、「安心、安全な地域づくり」を重点項目と設定し推進していくことで、基本方針である『誰もが孤立せずにつながりがある座間』の達成を目指します。

※有効回答人数：375名、総回答数：933

新型コロナウイルス感染症の影響による意識の変化



アンケートで「コロナ禍での意識変化」について伺いました。

外出を控える、人と会うことを控えるようになったとの結果が上位に入るとともに、「人とのつながりの大切さを知ることができた」との結果も上位に入っています。

策定委員会、ヒアリングでは次のようなキーワードが出てきました。

顔の見える関係

対面のよさを再確認

大人も子どもも  
みんな一緒に

孤立を防ぐ



### 3 重点項目

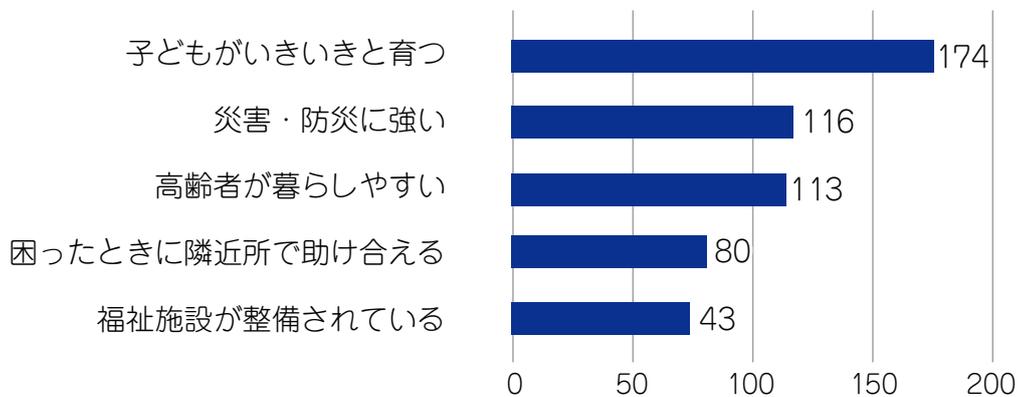
## (1) 担い手づくり (誰もが担い手になれるまち・座間)

地域の活動には行政だけではなく、地域のみなさんの力が必要です。  
さまざまな立場の人が自分に合った形で活動に携われるように、気軽に参加できる  
仕組みづくりを推進していきます。

また、活動が継続できる地域を目指し、担い手発掘のきっかけづくりを推進します。

※有効回答人数：382名、総回答数：989

### 5年後はどのような座間市になってほしいか



アンケートで「5年後は座間市にどのようなまちになってほしいか」伺いました。  
「未来を担う世代への福祉教育があるまち」への回答も多数ありました。  
策定委員会、ヒアリングでは次のようなキーワードが出てきました。



## 地域みなさんが出来ること



## 【市社協の主な取り組み】



### 担い手の現状を調査する

- ・アンケートを行い、担い手の実情を調査・分析します。



### 幅広い世代へ届くように情報発信する

- ・全世代に向けて、SNS等を活用した情報発信を増やします。
- ・回覧板や地域の掲示板、広報紙などを活用します。



### 福祉講座・福祉教育を行う

- ・福祉講座を開催し、福祉に関心を持ってもらうきっかけをつくります。
- ・世代を問わず、福祉教育に力を入れます。
- ・新たな担い手を発掘する養成講座を実施します。



### 活動を続けるための支援をする

- ・担い手が活動するにあたり、どのような支援が必要か調査します。
- ・現在の担い手が活動を継続できるよう、必要な支援を行います。

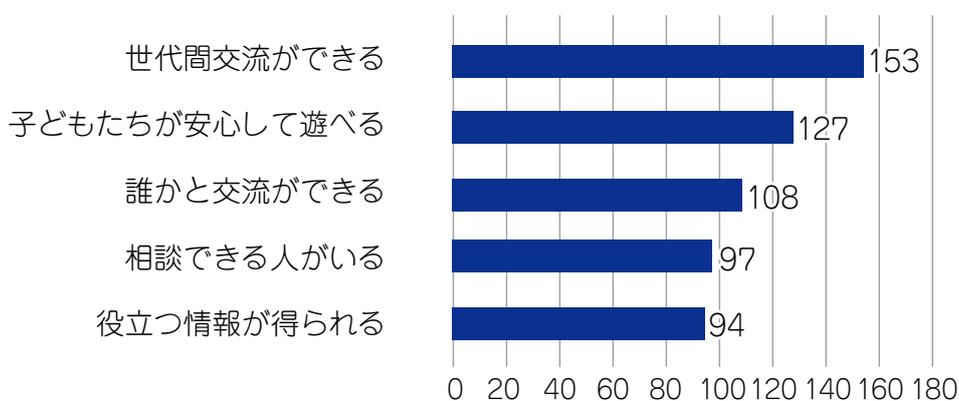
## (2) 居場所づくり (誰もが気軽に交流できるまち・座間)

人と人がつながるには、まずは交流できる居場所が必要になります。身近な地域に居場所があることで、自分らしく安心して過ごすことにもつながります。

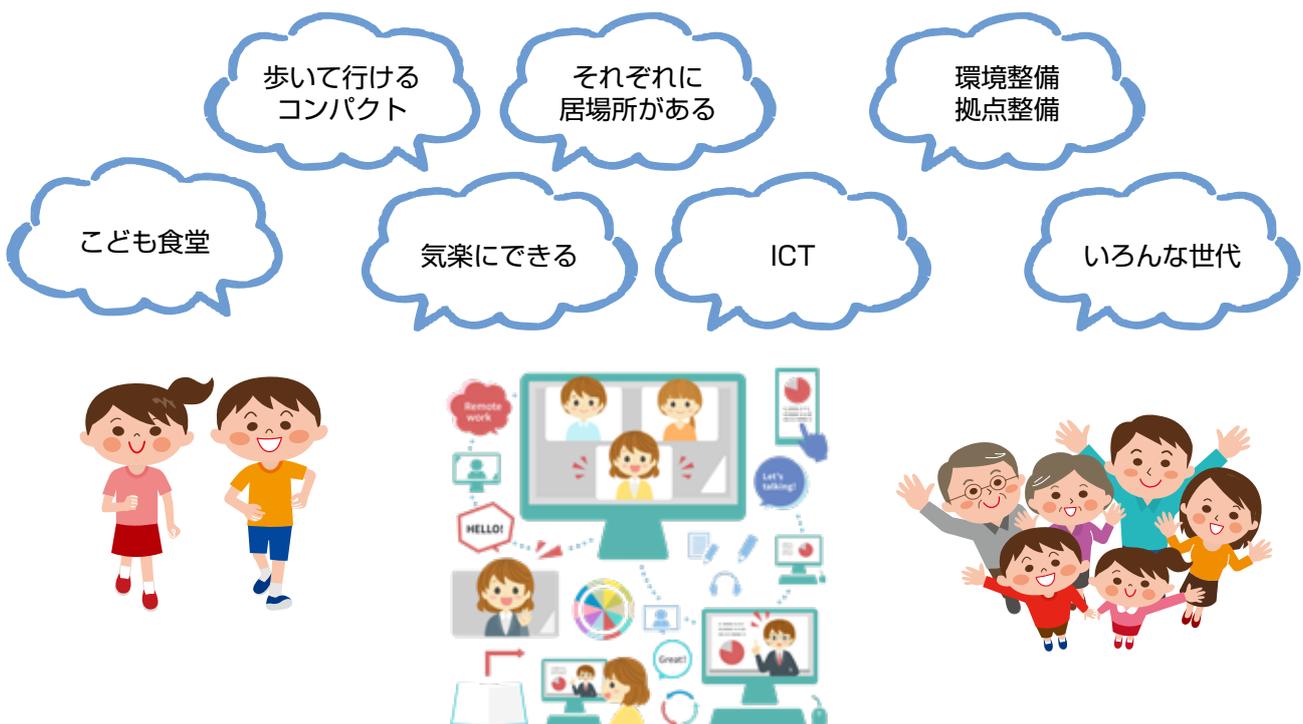
誰もが気軽に参加できる居場所が増えること、居場所が継続できる仕組みがある地域を目指します。

※有効回答人数：342名、総回答数：896

5年後の座間市に必要な場所



アンケートで「5年後の座間市に必要な場所」について伺いました。世代間交流、子どもが遊べる、誰かと交流できるなどの結果が上位に入っています。策定委員会、ヒアリングでは次のようなキーワードが出てきました。



## 地域みなさんが出来ること

公共施設や地域の掲示板で  
情報収集してみましよう

たとえば…

知っている居場所の情報を  
発信してみましよう

地域住民が交流できる場や  
講座を開催してみましよう

SNS やインターネットを  
活用して情報収集して  
みましよう

地域の行事やイベントに  
参加してみましよう



## 【市社協の主な取り組み】



### 居場所の現状を調査する

- ・居場所について運営者にアンケートを行います。  
(例 みんなの食堂、子ども食堂、学習支援、サロン (通いの場) 等)



### 世代を問わず届くように情報発信する

- ・居場所などについての情報をまとめ発信します。
- ・広報、掲示板、店舗、SNS などを活用した情報発信数を増やします。



### 福祉に関する講座等を実施する

- ・誰でも参加できる内容の講座 (福祉、ICT 講座、防災…) を実施します。
- ・オンラインで福祉を知ってもらう取り組みを行います。(例 オンライン福祉まつり)
- ・企業や法人と連携し、地域みなさんに向けた講座を開催します。



### 企業や法人等と一緒に活動する

- ・企業や法人等の社会貢献活動をサポートします。
- ・企業や社会福祉法人の公益的な取り組みについて研修を行います。
- ・使っていない会議室や敷地を地域活動に提供してもらえよう働きかけます。

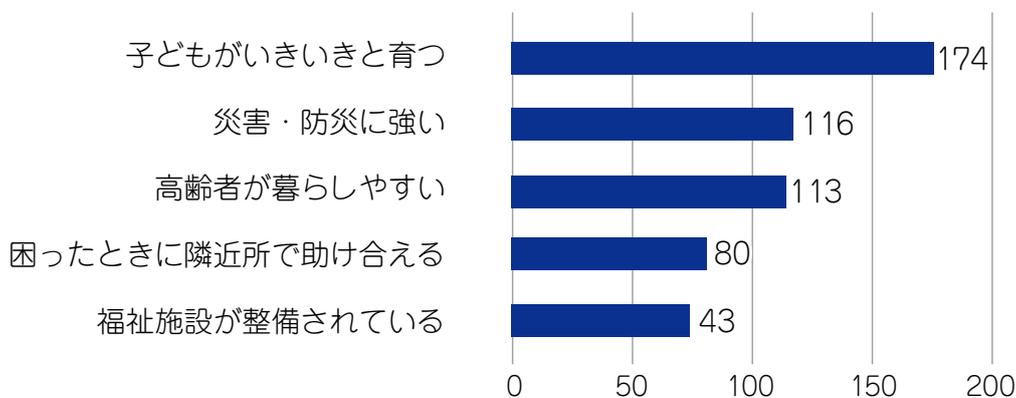
### (3) 安心・安全な地域づくり (お互いの顔が見えるまち・座間)

災害は誰もが直面する課題です。平時から災害時に備えて、顔の見える関係や、近隣とのつながりが重要となってきます。

また、安心を感じる地域には、困った時に相談出来る人や場所があることが大切です。困った人が声を上げられなくても、地域のつながりによって、誰もが適切な支援につながる、安心して暮らせる地域を目指します。

※有効回答人数：382名、総回答数：989

#### 5年後はどのような座間市になってほしいか



アンケートで「5年後はどのような座間市になってほしいか」伺いました。

「災害・防災に強いまち」、「困ったときに隣近所で助け合えるまち」の回答が多くあり、安心して暮らせる地域が上位に入っています。

策定委員会、ヒアリングでは次のようなキーワードが出てきました。



## 地域みなさんが出来ること

日頃から挨拶や声を  
かけ合ってみましょう

たとえば…

地域の行事やイベントに  
近所で誘い合って  
参加してみましょう

防犯・防災訓練や講座などに  
参加してみましょう



## 【市社協の主な取り組み】



### 地域のつながりの現状を調査する

- ・アンケートを行い、地域のつながりの現状を調査・分析します。



### 相談窓口などに関する情報を発信する

- ・相談支援や専門機関の認知度を高めるために、地域みなさんに向けた情報発信の数を増やします。
- ・地域の中で出張相談等を行います。



### 福祉に関する講座等を実施する

- ・サロンや地域活動に対するオンライン活動を促進します。
- ・住民が共通して取り組める講座（福祉、災害、防災）を行います。



### 顔が見えるためのイベント等を実施する

- ・地域の人々が身近に集まることの出来るイベントの企画を一緒に行います。
- ・福祉分野に偏らず、他業種と協働しながらイベントを行います。

## 第4章 計画の推進・評価・進行管理

### 1 計画の推進について

第4次計画の推進には、地域のみなさんや関係機関・団体などのご理解やご協力、行動や参加が必要です。より多くの方々に広く周知するため、本冊子だけでなく、概要版を作成し、ホームページ等を活用した積極的な情報発信を行うとともに、地域イベントなどの機会を通じて地域のみなさんのご理解を図り、行動や参加へとつなげていきます。

第4次計画の推進の主体は、市社協が担います。

### 2 計画の評価について

座間市地域福祉活動計画推進評価委員会<sup>\*1</sup>を設置し、計画の推進や評価を進めます。定期的にアンケート等を実施して現状を把握し、次のような評価の視点を踏まえながら、計画の達成度を評価するとともに、必要に応じた見直しにも取り組んでいきます。

#### 【評価の視点】

量的評価（定量的評価）	取り組みの進み具合や、取り組みによる課題解決の達成の程度を数値で評価します。
質的評価（定性的評価）	取り組みや状況の数値では表しにくい部分を、ヒアリングや記録など文字や写真などによって、質的に評価します。
プロセス評価 (実際の取り組みや工夫)	実際の取り組みや工夫の経過（実施の過程）を評価します。

### 3 計画の指標について

第4次計画の重点項目毎に、複数の評価指標を設定し、取り組みの進捗や目指す姿への達成度合いを可視化していきます。各項目で提示した市社協の主な取り組みであれば、次のような評価指標が考えられます。この評価指標を市社協内や地域のみなさんと共有し、取り組みの方向性や進度などを確認し、必要に応じて修正していきます。

評価指標は、推進評価委員会にて検討していく予定です。

<sup>\*1</sup> 推進評価委員会：計画が適切に実行に移されているか、進行管理や達成度合いを含む評価を行う、本計画の効果的な展開を図るため、市民や関係機関で構成する委員会です。社会情勢等の変化に伴う地域のニーズの変化や、法や制度改正に対応した取り組みになっているか、計画の中身と現状の整合性を確認します。

## 重点項目① 担い手づくり

### 誰もが担い手になれるまち・座間

	市社協の取り組み	考えられる指標
1	現状把握	アンケート調査
2	情報発信	・ SNS による情報発信数 ・ 広報紙の認知度
3	・ 福祉講座の開催 ・ 福祉教育の実施	・ 講座参加者数、講座満足度 ・ 福祉教育実施回数、満足度
4	必要な支援の実施	ニーズ充足度
5	新たな担い手を発掘	新規参加者の数、新たな活動数
6	必要な支援調査	福祉関係者への調査の実施

## 重点項目② 居場所づくり

### 誰もが気軽に交流できるまち・座間

	市社協の取り組み	考えられる指標
1	現状調査	居場所関係者への調査の実施
2	情報発信	・ 居場所関係への情報発信数 ・ SNS による情報発信数
3	講座開催	・ 講座開催数、講座満足度 ・ オンラインツールの活用、満足度
4	企業や法人との連携	企業や法人と連携したイベントや講座の開催数
5	企業の社会貢献サポート	研修実施数、参加企業数

## 重点項目③ 安心・安全な地域づくり

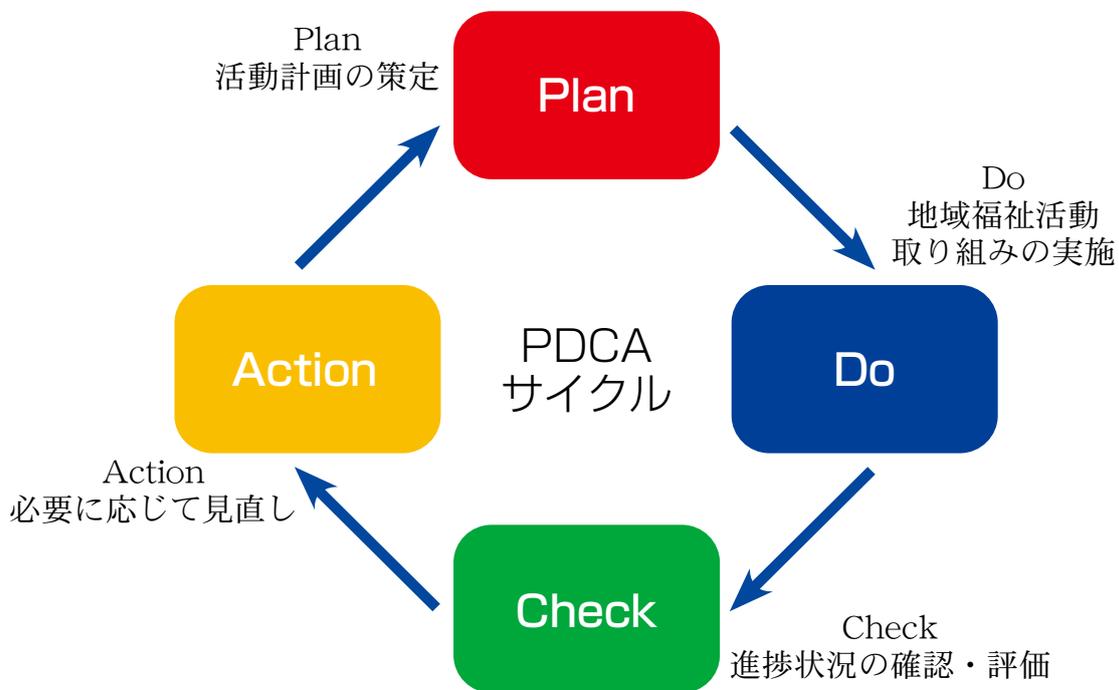
### お互いの顔が見えるまち・座間

	市社協の取り組み	考えられる指標
1	現状把握	地域のつながりに関する調査をする
2	情報発信	情報発信数・市民への認知度調査
3	地域出張相談	地域出張相談回数
4	オンライン地域活動促進	オンラインサポート回数
5	・ 講座開催 ・ イベントの企画 ・ 他分野との協働イベントの開催	・ 講座開催数 ・ 企画に関わった人数、満足度 ・ 関わった他分野の数

#### 4 計画の進行管理について

第4次計画の推進評価については次のようなスケジュールで進めていきます。計画の進捗管理に際しては、PDCA サイクル<sup>\*1</sup>を活用し、進捗状況を取りまとめ評価を行い、方向性等について検討を行い、必要であれば評価の見直しを行います。

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
活動計画の推進・実行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画の周知</li> <li>・地域の現状把握</li> <li>・年度見直し</li> <li>・アンケート調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・推進・実行</li> <li>・年度評価</li> <li>・見直しを反映</li> </ul>	第5次座間市地域福祉活動計画策定		
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・推進評価委員会の設置・開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・推進評価委員会を開催</li> <li>・評価指標による進捗評価</li> </ul>			



\* 1 PDCA サイクル：PDCA サイクルという名称は、サイクルを構成する次の4段階の頭文字をつなげたものです。この4段階を順次行って1周したら、最後のActionを次のPDCAサイクルにつなげ、螺旋を描くように1周ごとに各段階のレベルを向上（スパイラルアップ、spiral up）させて、継続的に業務を改善します。

# 資料編

# アンケート調査の結果

## 1 調査の実施概要

### 1) アンケート調査目的

第4次計画を策定するにあたり、地域福祉活動を推進するための課題を明らかにする。

### 2) 調査対象者（無作為にアンケートを配布）

座間市在住、在学、在勤者

### 3) 集計の内容

#### ①単純集計

各設問に対する回答を集計し、報告している。

#### ②クロス集計

回答者属性による傾向を把握するために実施。ここでは年代による集計を報告している。

### 4) 集計結果の見方

①回答は小数第2位を四捨五入し、構成比率（%）で小数第1位までを表示している。

よって、回答率の合計が100.0%を上回る場合がある。

②複数回答の設問の場合、比率の合計が100.0%を上回る場合がある。

③「N」は総回答者数、「n」は回答者数を表す。

④ [SA] は単一回答、[MA] は複数回答を表す。

### 5) 回収結果

#### ①調査方法

アンケート用紙と Web アンケートフォームの2種類

#### ②調査日程

令和3年6月1日～令和3年9月15日

#### ③回収結果

アンケート用紙：167、Web アンケートフォーム：212

## 2 集計結果

### <回答者情報>

#### 1. 居住地区 ※圏域表記

	相模が丘	ひばりが丘	栗原	相武台	立野台	新田宿	市外	無回答
回答(人)	65	58	46	53	60	71	24	2
割合	17.2%	15.3%	12.1%	14.0%	15.8%	18.7%	6.3%	0.5%

#### 2. 性別

	男性	女性	回答しない	無回答
回答(人)	167	206	3	3
割合	44.1%	54.4%	0.8%	0.8%

#### 3. 年齢 ※クロス集計は29歳以下/70歳以上でまとめ

	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上
回答(人)	15	15	26	73	69	65	89	27
割合	4.0%	4.0%	6.9%	19.3%	18.2%	17.2%	23.5%	7.1%

#### 4. 同居家族の人数

	1人(単身)	2人	3人	4人	5人以上	無回答
回答(人)	53	129	75	67	53	2
割合	14.0%	34.0%	19.8%	17.7%	14.0%	0.6%

#### 5. 職業 ※その他(自由記述)でまとめ

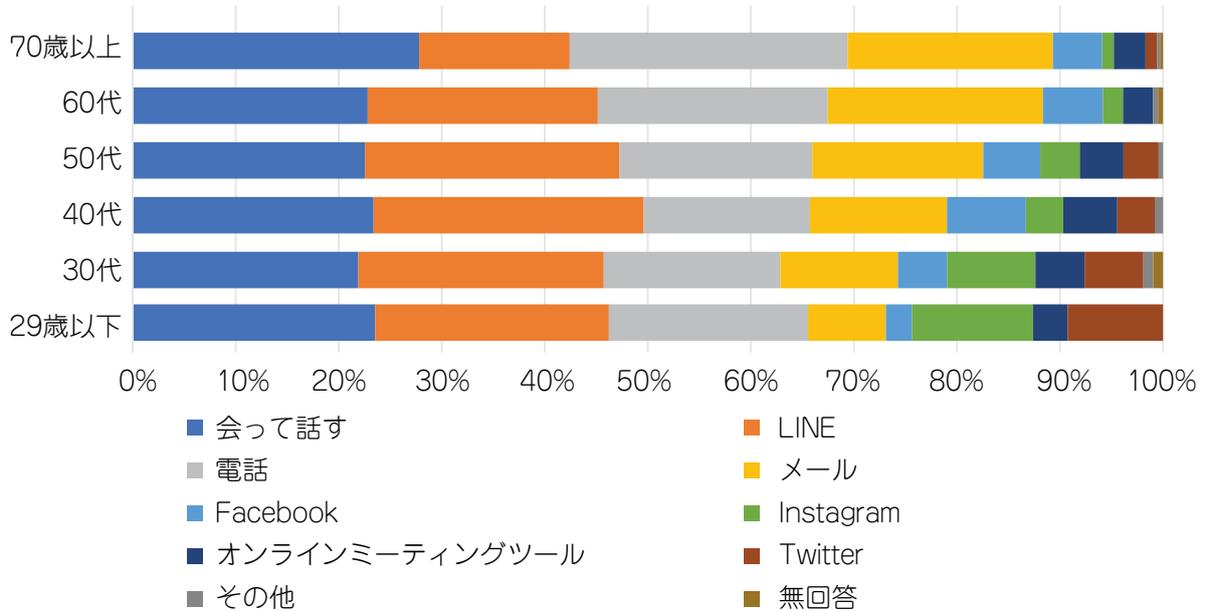
	会社員・公務員	自営業	パート	学生	無職・定年退職	専業主婦(夫)	その他	無回答
回答(人)	92	23	69	15	103	43	17	17
割合	24.3%	6.1%	18.2%	4.0%	27.2%	11.3%	4.5%	4.5%

## <設問に対する回答結果>

### 1. 「普段から使うコミュニケーション手段を教えてください」

(N = 379、n = 376) [MA]

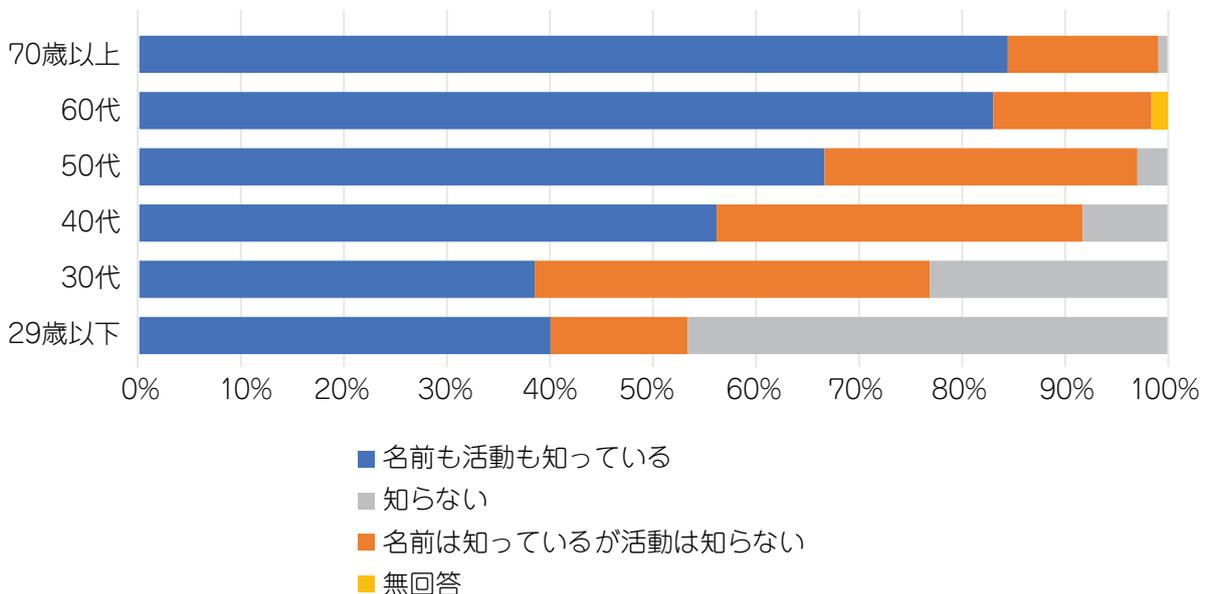
「会って話す」が8割を超え、次いで「LINE」、「電話」が7割を超える結果となった。コロナ対策の影響で、対面でのコミュニケーションの減少が予想されたが、「会って話す」機会も大きくは失われていないことが分かった。SNSによるコミュニケーションは若年層の利用比率が高い。



### 2. 「座間市社会福祉協議会を知っていますか」

(N = 379、n = 378) [SA]

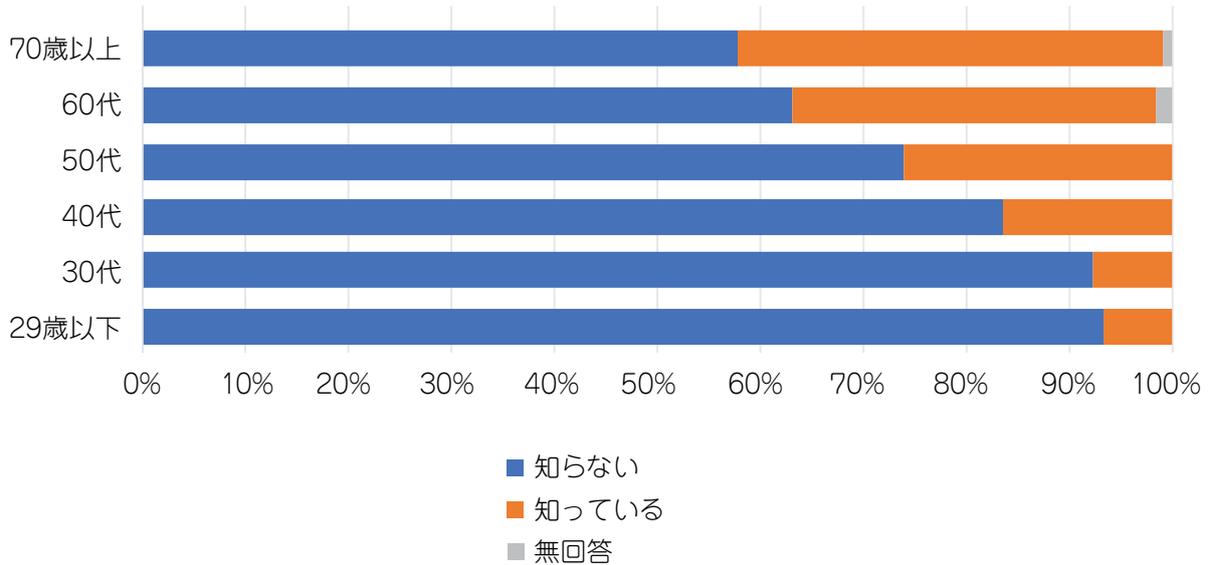
「名前も活動も知っている」という回答が約7割を占め、「名前は知っているが活動は知らない」が約2割、「知らない」1割弱との結果となった。年代による回答傾向が見られ、若年層では「名前は知っているが活動は知らない」、「知らない」との回答が多くあり、高齢層では「名前も活動も知っている」の割合が高い。



### 3. 「座間市地域福祉活動計画を知っていますか」

(N = 379、n = 377) [SA]

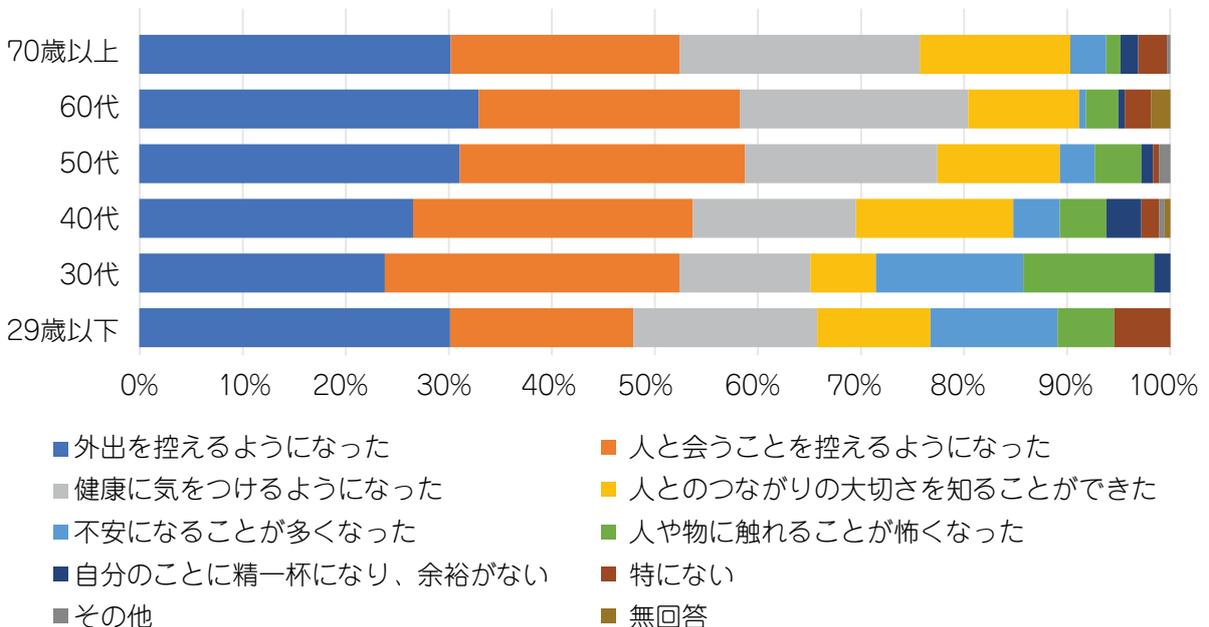
「知っている」は3割弱との結果となった。社会福祉協議会のことは知っているも、地域福祉活動計画のことは知らない人が多いことが分かった。若年層に比べて、高齢層は「知っている」との回答が多い。



### 4. 「コロナの流行を受けて、意識の変化はありましたか」

(N = 379、n = 375) [MA]

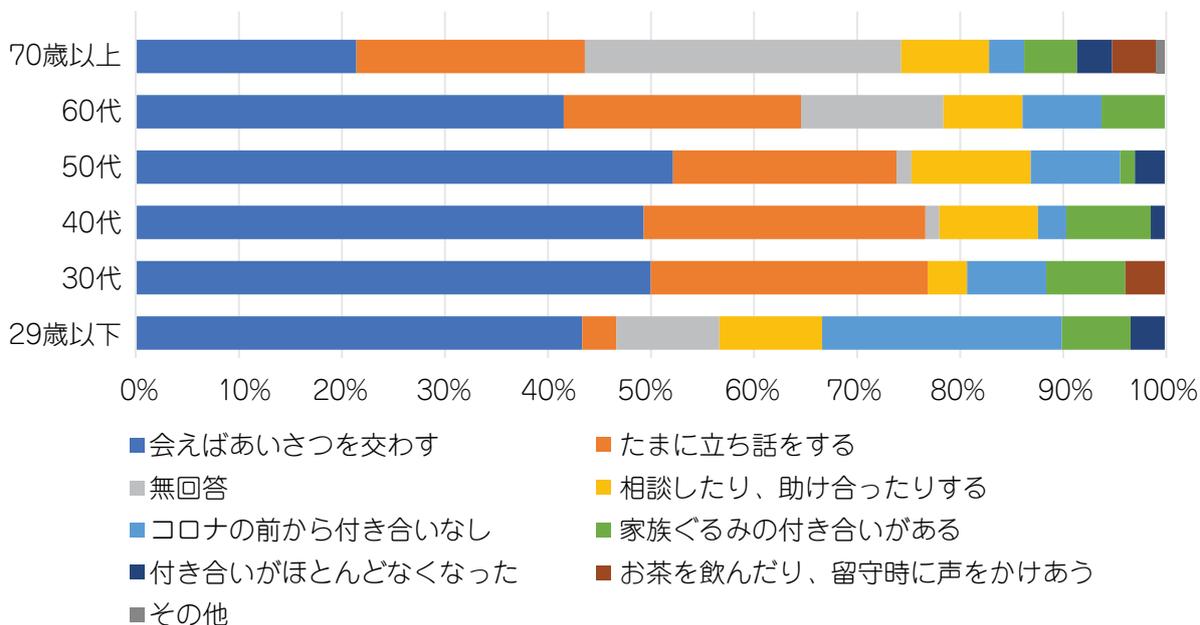
「外出を控えるようになった」が7割、「人と会うことを控えるようになった」が6割を超えている。次いで「健康に気をつけるようになった」との回答が約5割あった。コロナ対策のために、人との関わりが減った半面、「人とのつながりの大切さを知ることができた」という回答も多くあった。



## 5. 「コロナの流行後、近隣（隣近所）とどの程度付き合いがありますか」

(N = 379, n = 349) [SA]

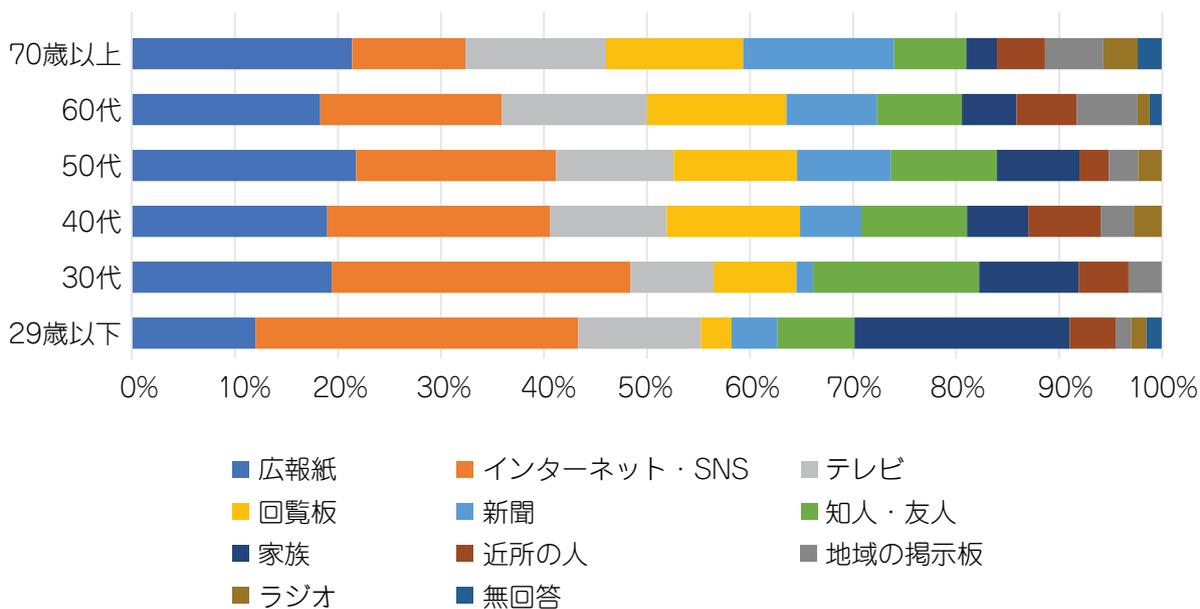
「会えばあいさつを交わす」が4割、「たまに立ち話をする」が2割を超える結果となった。コロナの影響により、関わりが減った人はわずか2%と少なかった。



## 6. 「地域の情報はどこから入ってきますか、どのようにして得ていますか」

(N = 379, n = 369) [MA]

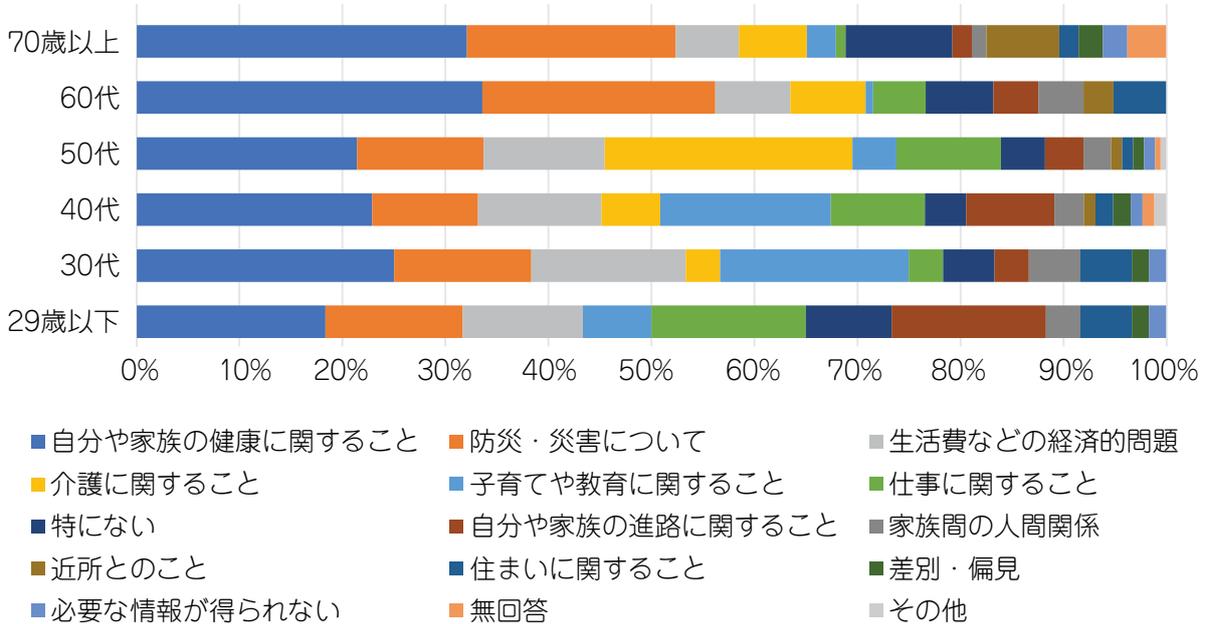
「広報紙」が5割を超え、「インターネット・SNS」が5割弱との結果となった。若年層は「インターネット・SNS」との回答が多かったが、高齢層は「広報紙」の回答が多く、年代による差が見られた。



## 7. 「暮らしの中でどのようなことに悩んだり、不安を感じていますか」

(N = 379, n = 368) [MA]

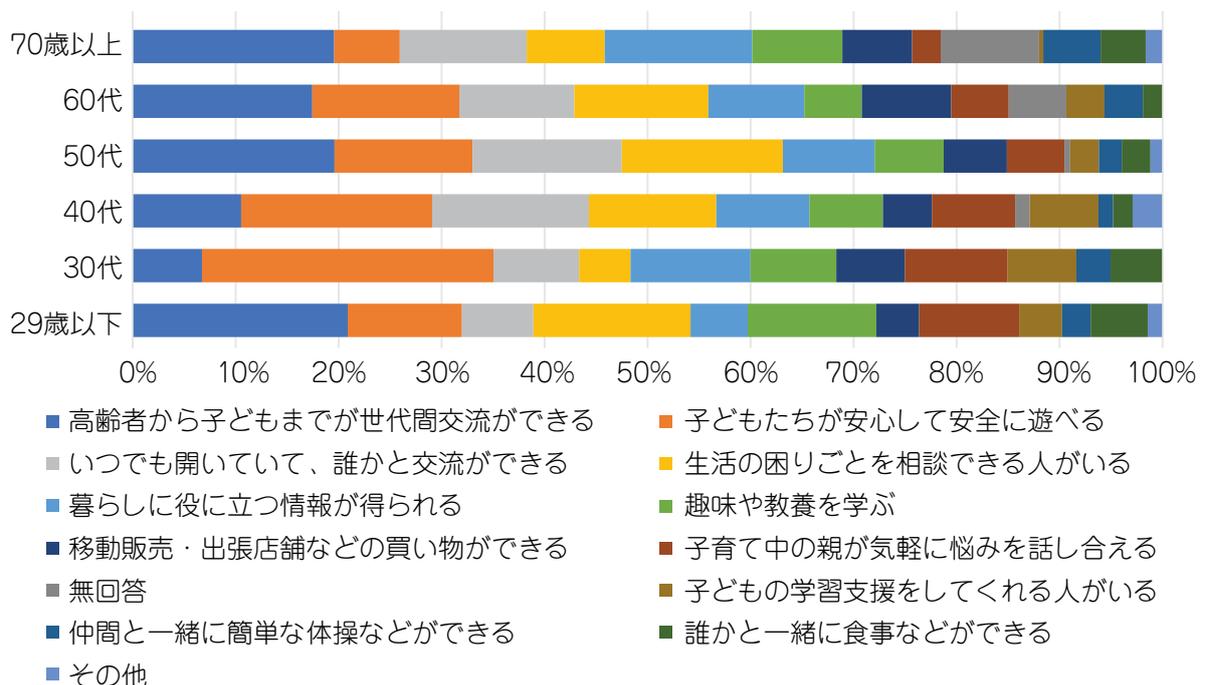
「自分や家族の健康のこと」が6割弱、「防災・災害について」が3割との結果となった。次いで、「生活費などの経済的問題」、「介護に関すること」が2割と続いた。年代による回答でバラつきがあった。



## 8. 「5年後の座間市には、どのような場所が必要だと思いますか」

(N = 379, n = 342) [MA]

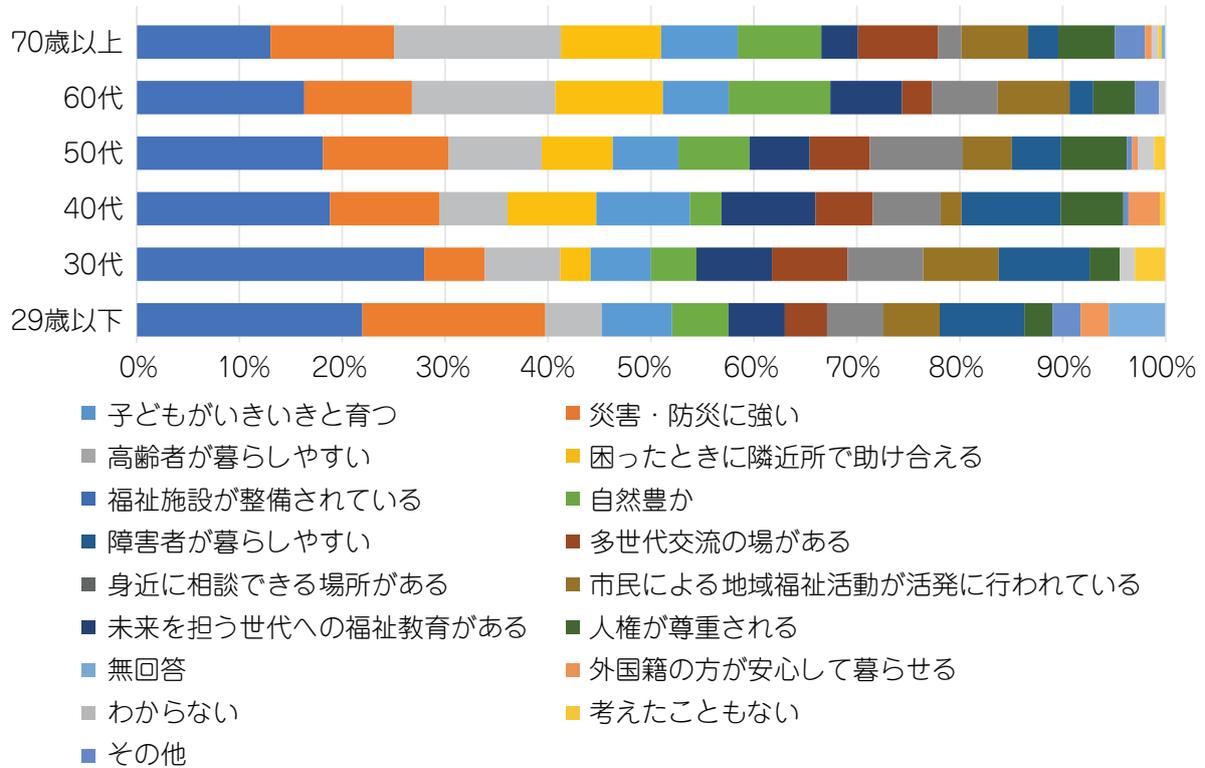
「高齢者から子どもまでが世代間交流ができる」が4割を超え、「子どもたちが安心して安全に遊べる」、「いつでも開いていて、誰かと交流ができる」が3割を超えた。年代による差はあるが、「子どもたちが安心して安全に遊べる」は、子育て世代からの回答が多くあった。



## 9. 「5年後の座間市は、どのようなまちになってほしいですか」

(N = 379, n = 362) [MA]

「子どもがいきいきと育つ」は約5割の方から回答があり、「高齢者が暮らしやすい」、「災害・防災に強い」も3割近い方からの回答があった。どの年代でも「子どもがいきいきと育つ」との回答が半数以上あり、次世代を担う若者への期待が感じられた。



## ヒアリング調査の概要

### 1) ヒアリング調査目的

第4次計画の目指す地域の姿や、市民アンケートから浮かび上がった地域の課題について、日頃より地域活動や行政・教育等公共サービスに関わり、地域について俯瞰的に考察されている策定委員のみなさまより、さらに踏み込んだかつ具体的なご意見を伺うことを目的に実施した。

### 2) 調査対象者

次の第4次計画策定委員のみなさま

	日時	回答者
1	9月14日	座間市福祉部福祉長寿課 谷田 <sup>タニダ</sup> 亮 <sup>リョウ</sup> 氏
2	9月15日	こぼんのう 上 <sup>カミエノオ</sup> 醉 <sup>カズエ</sup> 尾 <sup>カズエ</sup> 和 <sup>カズエ</sup> 枝 <sup>カズエ</sup> 氏
3	9月16日	日本語ボランティアサークル「そら」 (座間市ボランティア連絡協議会) 長 <sup>ハセガワ</sup> 谷 <sup>マサオ</sup> 川 <sup>マサオ</sup> 昌 <sup>マサオ</sup> 夫 <sup>マサオ</sup> 氏
4	9月16日	児童養護施設 成光学園 鈴 <sup>スズキ</sup> 木 <sup>マサヒコ</sup> 雅 <sup>マサヒコ</sup> 彦 <sup>マサヒコ</sup> 氏
5	9月17日	座間市老人クラブ連合会 藤 <sup>フジツカ</sup> 塚 <sup>ステオ</sup> 捨 <sup>ステオ</sup> 雄 <sup>ステオ</sup> 氏
6	9月21日	神奈川県立相模向陽館高等学校 田 <sup>タシロ</sup> 代 <sup>ムネヒロ</sup> 宗 <sup>ムネヒロ</sup> 弘 <sup>ムネヒロ</sup> 氏
7	9月23日	座間市民生委員児童委員協議会 中 <sup>ナカムラ</sup> 村 <sup>ユミ</sup> 由 <sup>ユミ</sup> 美 <sup>ユミ</sup> 氏
8	9月24日	神奈川県立座間高等学校 村 <sup>ムラカミ</sup> 上 <sup>サトル</sup> 聡 <sup>サトル</sup> 氏
9	9月24日	座間市自治会総連合会 小 <sup>オマタ</sup> 俣 <sup>ケンイチ</sup> 憲 <sup>ケンイチ</sup> 一 <sup>ケンイチ</sup> 氏

### 3) 調査方法

市社協の地域福祉活動計画策定コアメンバーにより、対面及びオンライン会議システムZoomにて聞き取りを行った。事前に質問項目を送付し、その質問に対してご回答をいただき、必要に応じて確認・質問をさせていただいた。

### 4) 調査日程

令和3年9月14日～9月24日

## <回答概要>

### 1. 現状について

#### ①現在の活動について

- ・緊急事態宣言下で公共施設が利用できず活動ができていない。
- ・コロナにより、イベント・研修が中止になり、地域の人とのふれあいが減っている。
- ・密を避けて活動を継続している。コンパクトな活動は継続している。
- ・コロナにより生活が苦しくなっている家庭が多いのではないかと感じている。
- ・ICTを活用した授業や取組がかなり進んだと思う。ピンチはチャンスと捉え、コロナ後も、日本が遅れているとされるICTを活用した教育活動を進めていければと思っている。

## ②現在困っていること、今後困りそうなこと

- ・パソコンやスマホを持っていない人に、ICTによるアクセスができない。
- ・金銭面での困難が続いている。
- ・ボランティアの確保に課題を感じている。地区社協などへの協力依頼も検討している。
- ・職員が1名感染し、感染の広がりや職員数の不足が不安である。
- ・高齢まで働けるようになり、地域活動の成り手不足が心配である。働きながら活動できるような仕組みが求められる。
- ・地域活動の担い手を見つけることが難しい。
- ・プライバシーの問題が、専門機関との情報交換のハードルとなっている。

## ③活動を通して良くなったこと

- ・世代間交流に一步近づいたのではないかと感じている。
- ・「子ども食堂」という活動に対して理解や興味を示して下さる方が増えた。
- ・月に一度、タウンニュースに、活動の情報発信を行っており、認知度や理解を得ることができている印象。
- ・ICTを活用した教育を進めることで、一人ひとりに応じた授業の展開が可能になった。視覚的支援による効果も現れていると考えている。
- ・地域の皆さんとふれあえる機会が多くなった。
- ・活動すればするほど地域との繋がりは深まっている。

## 2. 地域の理想像について

### ① 5年後にはどんな座間市になって欲しいか

- ・「世代間交流、子どもが生き生き育つ座間」は概念的であり、ハード面ではなくソフト面での解決が地域福祉活動計画の理想。
- ・住んで良かったと思える座間になってほしい。
- ・幅広い世代や課題を網羅できると良い、お母さんや若者の意見も取り込んでほしい。
- ・いざというときに頼れる関係を作っていきたい。
- ・生活困窮などの人も含めた、人が人として暮らせる座間市になってほしい。
- ・座間に住んでいる人それぞれの居場所があるまちになってほしい。
- ・子どもや高齢者などが歩いていける範囲に必要なお店、施設がある街づくりが人々が安心して暮らせるようになると思います。
- ・災害に強いまち。
- ・住民が声を掛け合い助け合えるまち。
- ・まずは、コロナ以前の通常の活動ができる座間市に戻ってほしい。
- ・犯罪、事故等の少ないまち。
- ・子育てや福祉の充実したまち。

## ②どんな場所が必要か

- ・高齢者も子どももあらゆる世代が、様々な活動や交流のできる場所が増えて欲しい。
- ・コミュニティセンターや自治会館を今以上に開放されたものにしても良いのではないかな。
- ・物理的な「場所」ではなく、それを活かしていくコミュニティや、社協の取り組みや環境の整備が必要であると感じている。
- ・人と人とがつながれるような場所。つながれるのは良いが、少し煩わしいと思っている人を巻き込んでいくことが大事ではないかと思っている。
- ・子どもと大人と一緒に楽しめる場所。自然のままの公園や、PCを楽しめる場所など。
- ・既存の場所をうまく使う。
- ・小単位の活動拠点（自治会館 / サニープレイス座間のような）。行政ではなく地域住民が管理できると良い。

## 3. 今後の活動について

### ①現在の活動にどんな支援が必要か

- ・場所や拠点の問題があるので、公的施設などをもっと使えるようにしてほしい。
- ・オンラインの活動展開のため、オンラインの環境整備を行ってほしい。
- ・いろいろな場所へのアクセスができるようバス便が増えると良い。
- ・いい事例をアピール、共有するための情報交換会の場が欲しい。

### ②今後、こういう人や団体と関わっていきたい

- ・自団体が対象としている分野以外の団体の方の話を知りたい。
- ・地域の防災活動について詳しく知りたい、またそうした活動に携わる必要があると考えている。
- ・社会的に弱い立場の人たちを支援している組織などと関わることでそのような支援が充実すればと思っている。
- ・自治会、市社協、地域包括支援センター、小・中学校等と連携していきたい。
- ・座間市の歴史に詳しい人の話を聞く機会をもちたい。
- ・地域包括支援センター、民生委員と繋がりたい。

### ③自分たちにできる身近なことは何か

- ・身近な人とのコミュニケーションの構築を大事にしたい。
- ・赤い羽根共同募金など気軽に行えることから始めるのが良いと考える。
- ・学校の様子をHPや市の集まりなどで発信していければと思う。コロナのため活動が制限されているが、地域との関わりも増やしていければと思う。
- ・地域の方たちに寄り添い、耳を傾けて活動していくとともに、自分達の活動を幅広く知っていただく。
- ・児童の登下校見守り、パトロール、訪問活動など継続して行う。
- ・子どもたちに、自分たちが生まれ育った地域の良さを再認識させたい。

#### ④その他自由な意見

- ・策定委員会に、現場で活動している悩みや意見をどう反映していけばよいのか考えている。
- ・座間市は災害に対しての意識が高い。
- ・コンパクトなまちなので、住民の声が行政に届きやすいのではないか。
- ・自治会の加入率が下がってきており、加入してもらえるよう工夫しているがうまくいかない。どうしたら加入者が増加するのかを聞きたい。
- ・アンケートの回答年齢層が高いと感じた。若い人は5年後より今のことを考えていると感じている。若い層が回答しやすいよう、Webフォームを活用するなど工夫を感じた。
- ・座間市は企業や工場を中心とした街というよりも、住居・暮らしを中心とした街。市民が安心して暮らせるまちになっていくと良い。徒歩や自転車で生活ができる、防災の取組が浸透しているなど、安全、安心のまちとして発展してもらいたい。
- ・将来的に、座間市で働きたい、座間市に住みたいと思う若者たちが増えていくといいと思う。

## 第4次地域福祉活動計画策定委員会設置要綱

### (目的)

第1条 この要綱は、社会福祉法人座間市社会福祉協議会（以下、「協議会」という。）地域福祉活動計画策定委員会（以下、「委員会」という。）の設置、運営に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

### (設置)

第2条 座間市における地域福祉の推進と、協議会の事業の充実・強化及び体制の確立をめざす地域福祉活動計画（以下、「計画」という。）を策定するため、委員会を設置する。

### (任務)

第3条 委員会は、協議会会長からの次に掲げる諮問事項を調査・審議する。

- ①計画策定に必要な実態やニーズの把握、問題・課題の整理及び分析等
- ②計画の策定
- ③その他、計画策定のために必要な事項

### (構成)

第4条 委員会は、20名以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから協議会会長が委嘱する。

- ①地域福祉に識見を有する者
- ②関係機関又は団体の推薦を受けた者
- ③公募による者
- ④その他、協議会会長が適当と認める個人及び団体

### (委員会)

第5条 委員会に委員長1名及び副委員長1名を置く。

- ①委員長及び副委員長の選任は、委員の互選とする。
- ②委員長は、委員会の会務を総括する。
- ③副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代行する。

### (アドバイザー)

第6条 委員会にアドバイザーを置くことができる。

- ①アドバイザーは、協議会会長が委嘱する。
- ②アドバイザーは、委員会に出席し、助言することができる。

(委員会の招集)

第7条 委員会の会議は、必要に応じ委員長が招集し、委員長はその議長となる。

①会議は、過半数の委員が出席しなければ、これを開くことができない。

②会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見等の聴取)

第8条 委員会が必要と認めた場合は、会議等に関係者の出席を求め、意見及び説明を聞くことが出来る。

(委員の任期)

第9条 委員の任期は、必要な事項を審議・検討し、協議会会長への答申が終了したときに終わる。

①補欠により就任した委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(専門部会)

第10条 計画の円滑な作業を進めるために、専門部会を設けることができる。

(事務局)

第11条 委員会の事務局は、協議会内に置く。

①事務局は、計画の素案を作成する。

(委任)

第12条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営その他必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

1 この要綱は、平成20年7月1日から施行する。

2 この要綱は、平成28年10月1日から施行する。

3 この要綱は、令和3年4月1日から施行する。

(1) 策定委員会名簿

NO	組織名	氏名
1	座間市民間保育園理事長園長会	アキニワ ケイコ 秋庭 恵子
2	児童養護施設 成光学園	スズキ マサヒコ 鈴木 雅彦
3	神奈川県立座間総合高等学校	ナイトウ マナブ 内藤 学
4	神奈川県立相模向陽館高等学校	タシロ ムネヒロ 田代 宗弘
5	神奈川県立座間高等学校	ムラカミ サトル 村上 聡
6	こぼんのう	カミエノオ カズエ 上醉尾 和枝
7	日本語ボランティアサークル「そら」(座間市ボランティア連絡協議会)	ハセガワ マサオ 長谷川 昌夫
8	座間市障害者団体連合会	スズキ タカユキ 鈴木 孝幸
9	座間市老人クラブ連合会	フジツカ ステオ 藤塚 捨雄
10	座間市自治会総連合会	オマタ ケンイチ 小俣 憲一
11	座間市民生委員児童委員協議会	ナカムラ ユミ 中村 由美
12	座間市福祉部福祉長寿課	タニダ リョウ 谷田 亮
13	座間市福祉部生活援護課	サイトウ ケンジ 齋藤 研治
14	座間市社会福祉協議会	コバヤシ トモユキ 小林 智之

(2) 策定委員会開催経過

実施日	会議名	内容
R3.7.29	第1回策定委員会	・社協とは、地域福祉活動計画とは ・ワークショップ(5年後に必要な場所、理想)
R3.9.29	第2回策定委員会	・第3次活動計画評価案 ・ワークショップ(コロナ禍での影響)
R3.11.25	第3回策定委員会	・骨子案 ・ワークショップ
R3.12.23	第4回策定委員会	・第3章について意見聴取
R4.1.26	第5回策定委員会	・原案についての意見聴取

## SDGs : Sustainable Development Goals ( 持続可能な開発目標 ) と本計画

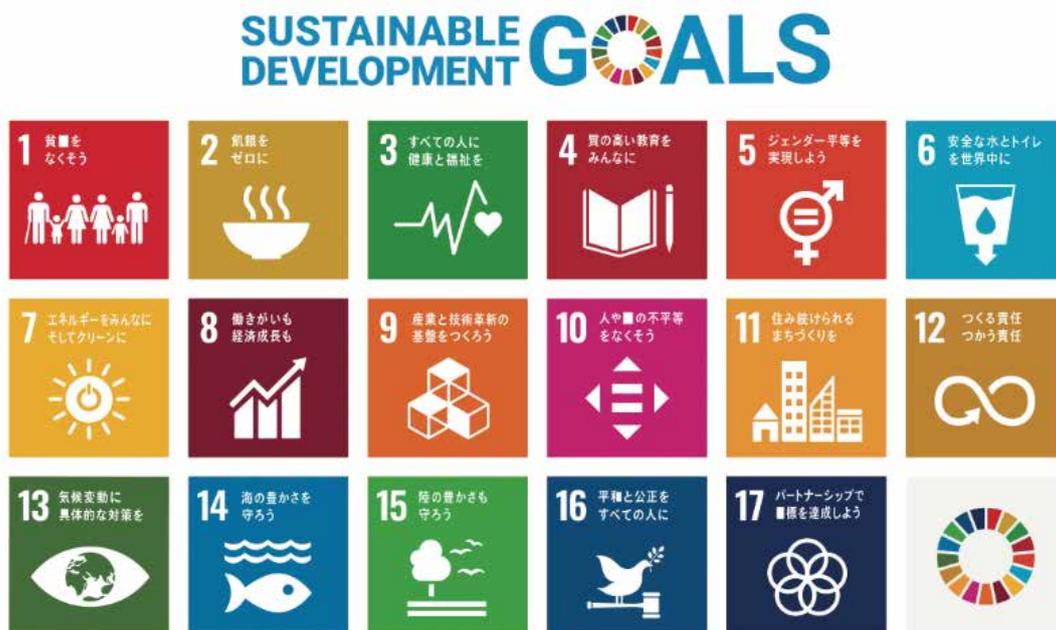
2015年9月に国連で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ /SDGs」は、現在の地球規模の課題を17の解決すべきゴールとしてまとめた国際的な目標です。

「誰一人取り残さない」というわかりやすい理念を掲げることで、多様性や包摂性の大切さを強く打ち出しています。持続可能性を高めるためには、社会・経済・環境の三側面の統合とともに、様々な人々の参画や透明性の向上、説明責任を果たすことが重要であると訴えています。

SDGsが、策定過程で、人々の声を踏まえて世界の課題を整理したように、市社協では、地域のみなさんの声を集めて地域の課題を整理し、本活動計画をまとめました。

また、SDGsが目標への達成状況を測るための指標を設定しているように、本計画重点項目の取り組みの進捗を可視化するための指標の設定についても準備を進めています。

今後は、地域のみなさんが地域活動に参加しアクションを起こすことで、次の世代に、今以上に住みやすい、住んで良かったと思える座間を受け継いでいけるよう、市社協としては、計画をわかりやすく伝え、推進・評価についてもしっかりと説明することに努めていきたいと考えています。



令和4年4月

 **社会福祉法人座間市社会福祉協議会**

〒252-0021 座間市緑ヶ丘一丁目2番1号  
Tel 046-266-1294 Fax 046-266-2009  
Eメール [plan4@zamashakyo.jp](mailto:plan4@zamashakyo.jp)  
ホームページ <https://www.zamashakyo.jp/>

こちらのQRコードからも  
ご意見等をお送りいただけます

